

田口滝ノ前遺跡 No.2

店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2025

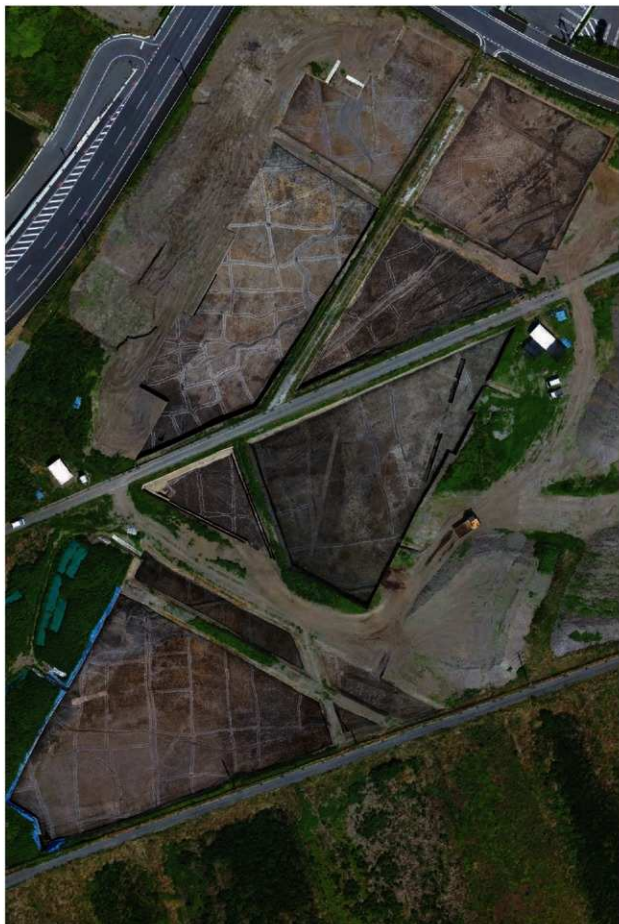
前橋市教育委員会
株式会社ベイシア
株式会社カインズ
技研コンサル株式会社

田口滝ノ前遺跡 No.2

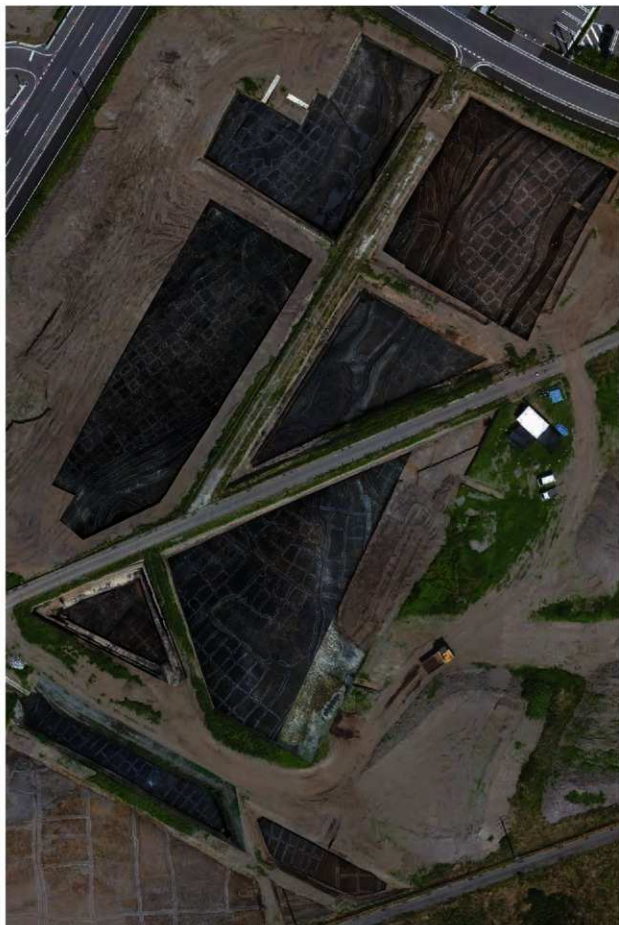
店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2025

前橋市教育委員会
株式会社ベイシア
株式会社カインズ
技研コンサル株式会社



調査区第1面全景（上が東 オルソ画像を基に写真を合成）



調査区第2画全景（上が東 オルソ画像を基に写真を合成）



遺跡遠景（中央奥は榛名山 東から）



As-B下水田東西坪境畦畔（9区 東から）



As-B下水田南北坪境畦畔（7区 南から）



中央に溝を伴うAs-B下水田畦畔（3区 南東から）



調査区遠景（4区 奥は道の駅まえばし赤城 北西から）



W-27断面、木杭（木31~33）検出状況（3区 東から）



Hr-FA洪水下水田に伴う大溝W-41（2区 西から）



Hr-FA洪水下水田大畦畔と水口（1区 南東から）



Hr-FA洪水下水田水口Aの環状遺構（1区 北東から）



Hr-FA洪水下水田水口Bの環状遺構（1区 北西から）



Hr-FA洪水下水田水口A断面（1区 北東から）



Hr-FA洪水下水田水口B断面（1区 北西から）



Hr-FA洪水下水田足跡検出状況（3区 西から）



Hr-FA洪水下水田鳥類足跡検出状況（2区 北西から）



H-1 遺物・炭化材検出状況（8区 東から）



基本層序C断面（8区 北西から）

例 言

- 1 本報告書は店舗建設事業に伴う「田口滝ノ前遺跡 No. 2」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、株式会社ベシシア、株式会社カインズの費用負担によって実施された。
- 3 遺跡の発掘調査及び整理作業は、株式会社ベシシア、株式会社カインズから委託を受けた技研コンサル株式会社、前橋市教育委員会事務局文化財保護課の監理指導のもと実施した。
- 4 発掘調査及び整理事業の体制は下記の通りである。

遺跡名	田口滝ノ前遺跡 No. 2 (前橋市 0008 遺跡) (前橋市遺跡コード: 6B25)
遺跡所在地	群馬県前橋市田口町 22-1、23-1、23-2、24-1、25-1、26-1、43-1、44-1、 45、46-1、47-1、62、63、64、65、66、67、69-1、70-1
監理指導	福田貫之 (前橋市教育委員会)
調査担当	茂木佑輔 曾根 裕 (技研コンサル株式会社)
調査員	三宅敦久 丸山和浩 (技研コンサル株式会社)
発掘調査期間	令和6年4月16日～令和6年9月13日
整理事業期間	令和6年9月17日～令和7年1月31日
調査面積	1,144 m ²

発掘調査参加者及び整理作業参加者は次の通りである。

大川明子 細野竹美 (技研コンサル株式会社)

芦川良紀 畦見恒夫 新井正明 新井 實 安藤三枝子 石川承子 伊丹茂一 今井浩二 上沢公一

大嶋政彦 太田英明 太田文江 大野秋男 岡 眞 小笠原知政 荻原一行 小内武明 小澤宏之

加藤知恵子 金子沢生 上村和枝 鴨田榮作 川上浩史 川上眞古登 菊田武明 木暮 昇 北爪二郎

木村広行 小池初美 木暮知二 小菅登喜雄 小林克宏 佐藤加奈子 佐藤秀幸 澤崎春希 品川安雄

杉田安廣 杉田友香 須田豊土 角谷孝一 高田 朗 高津邦道 田代京子 田代光男 田所順子

田村道文 土屋和美 角田拓弥 富岡信行 富澤 博 永井憲一 萩原愛美 羽鳥 智 早川枝里奈

星野正也 松下 明 水野さかゑ 村田稔男 山岸明日香 山口拓郎 吉村太一

- 5 本書の編集は茂木が行い、原稿執筆はⅠを福田貫之 (前橋市教育委員会)、Ⅱ・Ⅴ-第1節・Ⅵ-1を曾根、他を茂木が担当した。
- 6 出土木材の一部についてはバリノ・サーヴェイ株式会社にて樹種同定を依頼した。
- 7 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 8 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。
三陽技術コンサルタンツ株式会社 能登 健 前原 豊 山口逸弘 山下工業株式会社

凡 例

- 1 挿入中に使用した北は座標北である。
- 2 挿入に国土地理院発行1/25,000 [渋川]、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。
- 3 遺構名称は、堅穴建物：H、堅穴状遺構：T、溝：W、落ち込み：O、土坑：D、ピット：Pである。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。
遺構 堅穴建物・堅穴状遺構・水田・溝・落ち込み・土坑・・・1/60 全体図・・・1/250
遺物 土器・・・1/3 石器・・・1/3 木製品・・・1/6 鉄製品・・・1/1

5 本文及び表中の計測値については () は現存値を、[] は復元値を表す。

6 遺構断面のトーン表現及び略称は以下の通りである。

掘削面下： As-Kk 一次堆積層： As-B 一次堆積層： Hr-FA 洪水層：
遺物：P 石：S

7 報告書作成時に遺構名称を以下の通り変更した。(調査時→本報告書)

W-7 → W-6b と同一遺構

W-46 → W-12 と同一遺構

D-3 → T-1

8 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

浅間柏川テフラ (As-Kk)・大治三年(1128) 浅間山噴火による降下テフラ

浅間B軽石 (As-B)・嘉承三年・天仁元年(1108) 浅間山噴火による降下テフラ

榛名二ッ岳伊香保テフラ (Hr-FP)・6世紀中葉の榛名山二ッ岳噴火による降下テフラ

榛名二ッ岳渋川テフラ (Hr-FA)・6世紀初頭の榛名山二ッ岳噴火による降下テフラ

浅間C軽石 (As-C)・3世紀後葉～4世紀初頭の浅間山噴火による降下テフラ

目次

巻頭図版

例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
III 調査の方針と経過	3
IV 基本層序	4
V 検出された遺構と遺物	
第1節 第1面	
1 中世以降(竪穴状遺構、溝、土坑)	5
2 平安時代末期(As-B直下の水田・溝・土坑)	5
第2節 第2面	
1 古墳時代後期～平安時代(溝、落ち込み)	23
2 古墳時代後期(Hr-FA洪水直下の水田・溝)	24
第3節 第3面	
1 弥生時代後期～古墳時代前期(竪穴建物、溝、土坑)	43
第4節 遺構外出土遺物	47
VI 発掘調査の成果と課題	49

写真図版

報告書抄録

挿図目次

Fig.1	調査区位置図	1	Fig.24	第2面全体図(4)	32
Fig.2	周辺道路図	2	Fig.25	第2面全体図(5)	33
Fig.3	基本層序	4	Fig.26	第2面全体図(6)	34
Fig.4	第1面全体図	9	Fig.27	第2面全体図(7)	35
Fig.5	第1面全体図(1)	10	Fig.28	第2面4区東壁断面図、清断面図(1)	36
Fig.6	第1面全体図(2)	11	Fig.29	第2面清断面図(2)、W-25下層平面・断面図	37
Fig.7	第1面全体図(3)	12	Fig.30	第2面清断面図(3)	38
Fig.8	第1面全体図(4)	13	Fig.31	第2面清断面図(4)、落ち込み断面図、Hr-FA 洪水下 水田断面図(1)	39
Fig.9	第1面全体図(5)	14	Fig.32	第2面Hr-FA 洪水下断面図(2)	40
Fig.10	第1面全体図(6)	15	Fig.33	第2面Hr-FA 洪水下断面図(3)	41
Fig.11	第1面全体図(7)	16	Fig.34	第2面Hr-FA 洪水下断面図、水口平面・断面図、 本断面図	42
Fig.12	第1面全体図(8)	17	Fig.35	第2面出土遺物	43
Fig.13	第1面全体図(9)	18	Fig.36	第3面全体図	44
Fig.14	第1面清断面図(1)	19	Fig.37	第3面惣穴建物平面・断面図	45
Fig.15	第1面清断面図(2)、惣穴状遺構と土坑平面・断面図	20	Fig.38	第3面清断面図、土坑平面・断面図	46
Fig.16	第1面As-B下水田畦畔断面図(1)	21	Fig.39	第3面出土遺物(1)	46
Fig.17	第1面As-B下水田畦畔断面図(2)	22	Fig.40	第3面出土遺物(2)	47
Fig.18	第1面As-B下水田水口・歩行列断面図	23	Fig.41	遺構外出土遺物	47
Fig.19	第1面出土遺物	23	Fig.42	田口端ノ前道路No.2周辺のAs-B下水田	49
Fig.20	第2面全体図	28	Fig.43	Hr-FA 洪水下断面図の取配水の方向と水田ブロック	51
Fig.21	第2面全体図(1)	29	Fig.44	本坑の先端加工面数	52
Fig.22	第2面全体図(2)	30			
Fig.23	第2面全体図(3)	31			

表目次

Tab.1	周辺道路一覧表	2	Tab.5	第2面出土土材観察表	26
Tab.2	第1面溝・土坑計測表	6	Tab.6	第2面Hr-FA 洪水下断面計測表	27
Tab.3	第1面As-B下水田計測表	7	Tab.7	第3面溝・土坑計測表	43
Tab.4	第2面溝・落ち込み計測表	25	Tab.8	出土遺物観察表	47

写真図版目次

PL.1	1・3・5区第1面全景 7~10区第1面全景	PL.6	As-B下水田(4区) As-B下水田(5区) As-B下水田(7区) As-B下水田(8区) As-B下水田(10区) As-B下水田南北坪境畦畔(6区) W-23を伴うAs-B下水田畦畔(2区) As-B下水田面の凹凸検出状況(9区)	PL.11	8区第2面全景 4区第2面全景 W-11・26・48・58-62・64(4区) W-25下層木材検出状況(3区) W-49全景(6区) W-57遺物出土状況(4区) Hr-FA 洪水下断面(6区)	
PL.2	2区第1面全景 4区第1面全景	PL.7	As-B下水田歩行列2北半部検出状況(6区) As-B下水田水口(断面47 3区) As-B下水田水口(断面48 3区) As-B下水田水口(断面53・54 10区) As-B下水田置石3検出状況(9区) As-B下水田畦畔断面12、As-Kkの堆積(1区) As-B下水田畦畔断面22近接(3区) As-B下水田畦畔断面32(2区)	PL.12	Hr-FA 洪水下断面(1区) Hr-FA 洪水下断面(3区) Hr-FA 洪水下断面(8区) Hr-FA 洪水下断面水口の窪み(5区) Hr-FA 洪水下断面水田畦畔断面18(5区) Hr-FA 洪水下断面水田畦畔断面23遺物出土状況(6区) 8区第3面全景 H-1全景(8区) H-1大型の白石と炭化材検出状況(8区) H-1伊全景(8区)	
PL.3	6区第1面全景 T-1全景(9区) T-1籾、竹・木片検出状況(9区) T-1籾、竹・木片近接(9区) W-1東側全景(2区) W-4・5北西側全景(3区) W-4・5南東側全景(4区) W-6・8全景(5区) W-15全景(6区) W-22全景(2区) W-24全景(2区) W-30全景(2区) W-31全景(9区)	PL.8	1区第2面全景 2区第2面全景	PL.13	H-1掘り方全景(8区) W-69遺物出土状況(8区) W-70・71全景(8区) W-70遺物出土状況(8区) W-72・73全景(8区) 4区第3面確認トレンチ全景 基本層序B断面(5区) 降雨後のHr-FA 洪水下断面と作業風景(1区)	
PL.4	W-4・5南東側全景(4区) W-6・8全景(5区) W-15全景(6区) W-22全景(2区) W-24全景(2区) W-30全景(2区) W-31全景(9区)	PL.9	3区第2面全景 4区第2面全景	PL.14	PL.15	出土遺物
PL.5	W-32全景(8区) D-2全景(6区) D-2断面(6区) D-4全景(9区) D-4籾、竹・木片検出状況(9区) As-B下水田(1区北西部) As-B下水田(1区南東部) As-B下水田(2区)	PL.10	5区第2面全景 7区第2面全景 6区第2面全景			

参考文献

発掘調査報告書

- 神武町教育委員会 2019『双郷3遺跡』
財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 1998『沢川遺跡群』
財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 2007『総社関泉明神北V遺跡 元総社牛池川遺跡 元総社北川遺跡 元総社小見内V遺跡』
財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 2012『田口上田尻遺跡 田口下田尻遺跡』
財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 2013『壮子遺跡 上郷井五十嵐遺跡』
財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 2016『山王・免道跡群』
財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 2017『田口下田尻遺跡』
財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 2021『関根横田遺跡』
渋川市教育委員会 1986『中村遺跡』
高崎市教育委員会 1980『高田貝戸遺跡Ⅱ』
前橋市教育委員会 2011『朝倉伊勢西 No. 1 遺跡』
前橋市教育委員会 2020『田口滝ノ前遺跡』
前橋市歴史文化財発掘調査団 1984『青柳寄居遺跡』
前橋市歴史文化財発掘調査団 1987『寺田遺跡』

論文等

- 梅沢重規 1987『桑里制と利根川の変遷』『日本古代遺跡 16』保育社。
大庭重信 2022『弥生・古墳時代の農耕と集団構造』同成社。
岡田隆夫 1991『特論 上野国の桑里制』『群馬県史』通史編2原始古代2 群馬県史編さん委員会
金田幸祐 1982『桑里・プランと小字地名』『人文地理』第34巻3号 人文地理会
金田幸祐 2000『地割の起源』『古代史の論点』1 小学館
工業普通 1991『水田の考古学』東京大学出版会
坂口一・三浦京子 1986『奈良・平安時代の土器の編年』『群馬県史研究 24』群馬県史編さん委員会
橋本晋一 2016『貨幣考古学の世界』ニューサイエンス社
関口功一 2012『上毛野の古代農業景観』岩田書院
田中 雄 2002『群馬県内桑里制研究資料の収集と解題』『研究紀要 20』財団法人群馬県歴史文化財調査事業団
三浦京子 1989『群馬県の八世紀代の須恵器について』『埼玉考古第 26 号』埼玉考古学会

市町村史・図録等

- かみつけの里博物館 2015『第 23 回企画展ゆくのくるもの～北関東の後期弥生文化～』
群馬県教育委員会 1988『群馬郡の中世城館跡』
群馬県教育委員会 2017『群馬郡古墳総覧』
群馬県文化事業振興会 1977『上野国郡村誌 1 勢多郡 (1)』
勢多郡誌編纂委員会 1958『勢多郡誌』群馬情報社

I 調査に至る経緯

令和5年5月、株式会社ベイシア・株式会社カインズホーム（以下、「開発者」という。）より前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）へ田口町における開発に向けた協議があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市0008遺跡」内であるため、文化財保護法第93条第1項の届出を行う必要がある旨を回答し、併せて開発地の東では道の駅整備運営事業に伴う発掘調査（田口滝ノ前遺跡）を実施しており、確認調査を必要とする旨を伝えた。同年7月4日、試掘・確認調査依頼が提出され、同年7月10日～21日に市教委による確認調査を実施し、古墳時代と古代の水田跡等を確認した。遺跡の現状保存に向けて協議を行ったが、計画変更が困難であることから、遺構の残存する店舗建築部分と新設道路建設部分について記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至った。令和6年1月24日に文化財保護法第93条第1項の届出と発掘調査依頼書が提出された。

発掘調査の実施にあたっては、市教委直営での調査実施は困難であるため、市教委の監理・指導の下、民間調査組織による発掘調査とした。同年4月4日付けて開発者と民間調査組織である技研コンサル株式会社、市教委を加えた三者で協定を締結し、発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「田口滝ノ前遺跡 No.2」（遺跡コード：6B25）の「田口」は町名、「滝ノ前」は旧小字名、「No.2」は過年度に実施した調査と区別するため付した。

II 遺跡の位置と環境

地理的環境 本遺跡は群馬県庁から北へ5.5kmの、前橋市田口町に所在する。東は富士見町、北は渋川市北橋町、南は関根町、西は利根川を挟み北群馬郡吉岡町と接する。本遺跡の南側には国道17号上武道路が北西-南東に

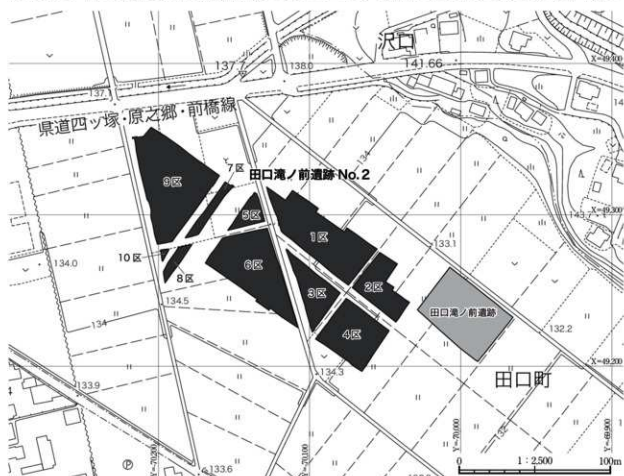
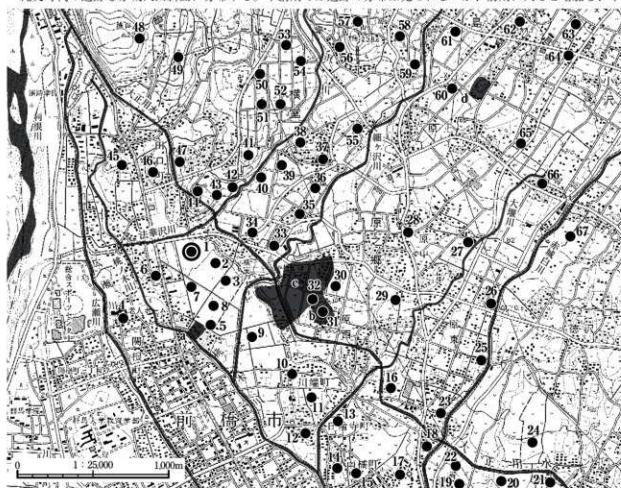


Fig.1 調査区位置図

走る。また、南東には道の駅まえばし赤城が2023年に新設され賑わいを与えている。田口町周辺の地形は、北東側に赤城火山斜面が、南西側に前橋台地があり、赤城火山斜面と前橋台地との間には広瀬川低地帯が形成されている。赤城火山斜面は緩斜面であり、その末端は比高10m前後の崖となっている。前橋台地は浅間山の山体崩壊により引き起こされた前橋泥流堆積物から形成されている。広瀬川低地帯は利根川の旧流から形成され、2.5～3kmの幅をもって前橋市の北西部から南東部に帯状にのびている。表層はその沖積砂礫から形成されている。各所に自然堤防が見られ、集落が発達している所はこの微地形に位置することが多い。本遺跡は赤城火山斜面と広瀬川低地帯の境界にあたる低地帯側に位置し、現在は水田地帯が広がっている。

歴史的環境 旧石器時代の遺跡は主に赤城火山斜面に分布しており、低地帯では確認されていない。青柳宿上遺跡 [17]、山王・柴遺跡群 [22]、上細井蛭山遺跡 [20] では、石器や剥片が出土している。

縄文時代の遺跡も赤城火山斜面に分布する。草創期では遺跡の分布は見られないが、前期に入ると増加し、中



Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	田口滝ノ前遺跡 No.2	16	旭久保遺跡	31	九十九山古墳	46	塩草塚古墳
2	田口滝ノ前遺跡	17	青柳宿上遺跡	32	九十九古墳	47	千手堂遺跡
3	関根横田遺跡	18	引切塚古墳	33	岩之下遺跡	48	幡砂遺跡
4	関根内山遺跡	19	神明古墳	34	横塚東沢口遺跡	49	岡市遺跡
5	関根赤塚遺跡	20	上細井蛭山遺跡	35	兜舟古墳	50	上庄河原西遺跡
6	田口下田尻遺跡	21	上細井中西部遺跡群	36	菅野遺跡	51	下庄河原西遺跡
7	田口下田尻遺跡	22	山王・柴遺跡群	37	横塚古墳	52	下庄河原東遺跡
8	関根赤城遺跡	23	引切塚遺跡	38	横塚前遺跡	53	上庄河原東遺跡
9	関根堀ノ沢遺跡	24	時沢西森林遺跡	39	横塚中遺跡	54	上庄河原北遺跡
10	川端山下遺跡	25	原之郷下白田遺跡	40	田中田遺跡	55	田中遺跡
11	川端根岸遺跡	26	原之郷白田遺跡	41	陣場遺跡	56	初宮古墳
12	日輪寺観音前遺跡	27	原之郷横沢遺跡	42	田口八幡宮遺跡	57	愛宕山遺跡
13	妻沼遺跡	28	原之郷中子遺跡	43	田口八幡1遺跡	58	日向遺跡
14	南橋東原遺跡	29	原之郷後原遺跡	44	南橋35号古墳	59	森山古墳
15	南橋東原遺跡 No. 2	30	原之郷山ノ後遺跡	45	田口冠木遺跡	60	白田・山森・久保田遺跡
						61	前橋市0726遺跡
						62	田島清水遺跡
						63	十二遺跡
						64	田島秩伯林遺跡
						65	原之郷栗阿弥遺跡
						66	小沢の場遺跡
						67	時沢中島遺跡
						a	関根赤塚遺跡
						b	九十九山古墳
						c	金山城
						d	田島城

期以降は減少する傾向にある。前期の集落は富士見地区の田中田遺跡〔40〕、陣場遺跡〔41〕、愛宕山遺跡〔57〕、上細井嶺山遺跡〔20〕で確認されている。中期の集落は久久保遺跡〔16〕、上細井中西部遺跡群〔21〕、陣場遺跡などで確認されている。これ以降、後期から晩期の遺跡は少なくなる。

弥生時代前期の遺跡も縄文時代晩期に続いて少なく、分布も赤城火山斜面に限られる。上細井中西部遺跡群〔21〕では中期中葉の竪穴建物と土器群、青柳宿上遺跡〔17〕では中期の土器が出土している。田中田遺跡〔40〕では後期後半の樽式土器が出土している。利根川右岸の榛名山麓には弥生時代後期の遺跡が比較的多く分布している。

古墳時代に入ると遺跡の分布は赤城火山斜面地から平野部に広がり始める。前期の古墳の検出例は少ないが、墳墓としては、下庄司原東遺跡〔52〕と上庄司原西遺跡〔50〕で方形周溝墓が確認されている。中期は山王・柴遺跡群〔22〕で竪穴式小石槨墓が6基検出されている。後期では、九十九山古墳〔31〕で前方後円墳が確認され、引切塚古墳〔18〕、陣場遺跡〔41〕、下庄司原西遺跡〔51〕、上庄司原東遺跡〔53〕などで円墳が確認されていることから、後期群集墳を形成していたと考えられる。中でも上細井中西部遺跡群〔21〕では大刀と銀象嵌が全面に施された鈿が出土している。また、前期から後期までの集落遺跡が田中田遺跡〔40〕や上細井中西部遺跡群などで確認されている。生産遺跡としては、関根赤城遺跡〔8〕、南橋東原遺跡 No. 2〔15〕、山王・柴遺跡群で畚の跡が検出され、また本遺跡以南にある田口滝ノ前遺跡〔2〕、関根細々沢遺跡〔9〕、川端山下遺跡〔10〕、青柳寄居遺跡ではHr-FA洪水下水田が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡も赤城火山斜面と平野部に広く分布している。集落遺跡としては田口上田尻遺跡〔6〕、田口下田尻遺跡〔7〕、久久保遺跡〔16〕、陣場遺跡〔41〕が挙げられる。田口下田尻遺跡、関根赤城遺跡〔8〕、関根細々沢遺跡〔9〕では鍛冶遺構が確認され、愛宕山遺跡〔57〕では炭窯が1基確認されている。上細井中西部遺跡群〔21〕では竪穴建物が検出され、墨書・刻書土器、腰帯具、硯などが出土している。田口滝ノ前遺跡〔2〕、関根横田遺跡〔3〕、山王・柴遺跡群〔22〕ではAs-B下水田が確認されている。

中世の遺構は、田口上田尻遺跡〔6〕で15世紀から16世紀の屋根敷遺構が確認されている。城館跡としては金山城〔c〕と田島城〔d〕、土塁状の高まりに囲まれた関根の寄居遺跡〔a〕が確認されている。近世の遺構としては田口上田尻遺跡〔6〕、田口下田尻遺跡〔7〕で天明3年(1783)の浅間山の噴火により発生した泥流被害の復旧溝、建物、水田、畚、溝が確認されている。

Ⅲ 調査の方針と経過

市教委が実施した試掘調査の結果に基づき、店舗建設工事によって遺跡の現状保存が困難な箇所について発掘調査を実施した。大小10箇所に分かれた調査区を1～10区と呼称して第1面の調査を行い、第2面の調査は市教委と協議の上、1～8区の範囲で調査を行った。第3面は竪穴建物が確認された8区において調査を行い、4区では2面よりも下層の遺構の有無を1箇所トレンチを入れて確認した。表土掘削は主に0.7mバックホウと10tクローラーを各2台使用して遺構確認面まで掘り下げ、その後は人力での遺構確認、遺構掘り下げ、土層断面の記録、出土遺物の記録、遺構平面図の記録を行った。測量図面はトータルステーション・電子平板を使用して作成した。写真記録は35mmフィルムカメラ(モノクロ・リバーサル)、デジタルカメラの3種を使用した。第1・2面の全景撮影では、調査区単位でマルチコプターによる空中撮影を計6回行った。整理作業においては、本文・図面・図版にわたる全ての作業をDTPの手法を用いたデジタル編集・組版によって報告書を作成している。

令和6年4月16日から0.45mバックホウ1台を使用してプレハブ・駐車場用地の整地を行った。18日から0.7mバックホウ1台で表土掘削を行い、5月7日から2台目を搬入して掘削を進めた。表土掘削後は人力で遺構確認・遺構の掘り下げを行った。5月17日に1・3・5区第1面の全景撮影を行い、第1面の調査を完了した調査区は第2面の表土掘削を進めた。6月13日には6区第1面、1・5区第2面の全景撮影を行い、1・5区は調査を完了した。調査が完了した調査区は順次埋め戻しを行った。7月4日には2・7～10区第1面の全景撮

影を行い、第2面調査範囲外の9・10区は埋め戻しを行った。7月25日には4区第1面と2・3・7区第2面の全景撮影、8月6日には6区第2面の全景撮影を行った。そして8月22日に残る4・8区第2面の全景撮影を行い、第1・2面の調査を完了した。翌23日、8区において基本層序を確認するため重機で部分的に掘り下げたところ、まとまった遺物が出土し、遺構の形状が平面的に確認されたため、8区で第3面の調査を行った。また、4区もトレンチを入れて下層の確認を行った。9月2日には8区第3面の全景撮影を行い、5日に市教委による最終の完了検査を受け、13日に現場作業を終了した。

IV 基本層序

Ⅲ層は5区から3区の方角に向かって流れた大規模な自然流路の堆積層である(PL14基本層序B断面)。V・IX層も洪水層で、本遺跡は洪水堆積と考えられる層を多く確認した。Ⅺ層(As-B一次堆積層)は調査区のほぼ全域で確認したが、2・3区は南東に向かってⅪ層の堆積が薄くなり、4区は全体的に堆積が薄い。4区では広瀬川砂礫層と考えられるⅫ層が確認されているため、3区から4区の方角に向かって高くなる微高地地形であったと考えられる。Ⅻa層は1・3～5区では礫をやや多く含んでいる。ⅩV層(Hr-FA洪水層)は調査区全体で確認されており、5区ではより厚く堆積している。As-C一次堆積層は確認できなかったが、ⅩⅦ～ⅩⅨ層がいわゆるAs-C混土层であり、ⅩⅦb層がAs-C一次堆積層により近い層と考えられる。第1面はⅪ層下面、第2面はⅩV層下面、第3面はAs-C混土层より下層のⅩⅨc層上面を確認面として調査を行った。

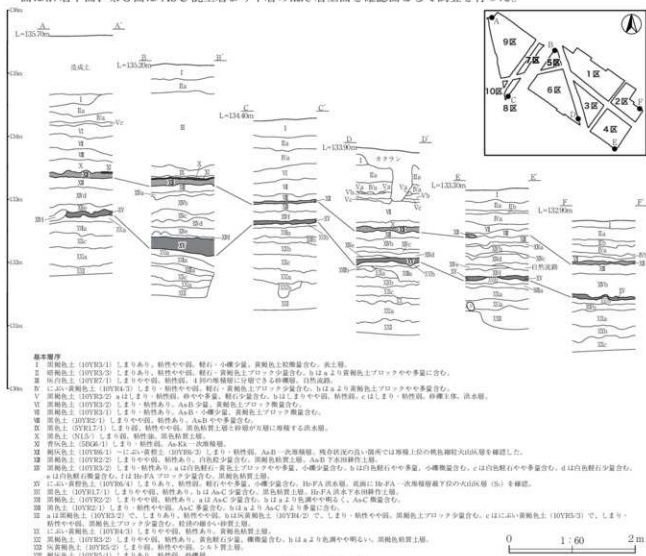


Fig.3 基本層序

V 検出された遺構と遺物

第1節 第1面

1 中世以降

(1) 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig. 4・7・15・19, Tab. 8, PL. 1・3)

位置 X=49,320～49,327, Y=-70,170～-70,165 主軸方向 N-25°-E 規模 平面は方形で南西側に2.71mの張り出しがあり、断面は緩やかな弧状を呈する。東西軸4.12m、南北軸5.57m、壁高0.1m。床面比較的凹凸の弱い底面であり、明確な硬化面は確認できなかった。重複 As-B下水田、W-13と重複し、それよりも新しい遺構である。柱穴 四隅で柱穴と想定されるピット状の浅い窪み(深さ0.06～0.09m)を4基検出。出土遺物 須恵器高台付埴(1)を図示した。他に土師器環1点が出土。また竹・木片数点、礫(5～20cm)が多量に出土。時期 As-B下水田を削平していることと覆土の状況から、As-B降下後の中世以降と考えられる。備考 遺構の性格については、作業場として使われた後、礫などが廃棄された場所であったと考えられるが判然としない。

(2) 溝・土坑 (Fig. 4～15, Tab. 2, PL. 1～7)

中世以降の溝を20条、土坑を2基検出した。溝、土坑の計測値については「Tab. 2 第1面溝・土坑計測表」を参照されたい。検出した溝はいずれもAs-B下水田を削平していた。覆土状況によって以下の3種類に分類できる。①覆土に礫を含む溝(W-3～5)。②覆土がAs-B二次堆積の溝(W-14～16・20・21・34・36・39)。③覆土がAs-B二次堆積で、その上層にX層が確認できる溝(W-1・2・9・10・24)である。上記のことからAs-B降下後に洪水が複数回、あるいは異なる時期に発生したと考えられる。

検出した土坑はいずれもAs-B下水田を削平している。D-1の覆土はAs-B混土であるため、As-B降下後の遺構と考えられる。遺物は出土せず性格は不明である。T-1に隣接するD-4は竹・木片や多量の礫が検出されたほか、須恵器環の小片が1点出土した。

2 平安時代末期 (As-B下)

(1) As-B下水田 (Fig. 4～13・16～18, Tab. 3, 巻頭図版1～3, PL. 1～7)

被覆層と水田の残存状況 As-B一次堆積層直下を確認面とし、水田面を被覆するAs-B一次堆積層の厚さは概ね0.12mである。As-Bが良好に残存している箇所では、水田面直上にAs-B堆積最下位の灰色細粒火山灰の薄層を確認した。また、後世の洪水による影響で水田面・畦畔・溝などが削平された箇所もある。特に4区ではAs-B一次堆積層が薄く、また洪水の影響もあり、残存状況は良好とはいえない。水田域の地形 水田面は北から南に向かって緩やかに傾斜している。調査区四隅の比高差は、9区北隅と8区南隅で0.36m、9区北隅と4区南西隅で1.03m、9区北隅と2区東隅で1.54mである。畦畔の走向と区画 畦畔は東西・南北方向で検出された。基本的に東西方向と南北方向へ直線的に走行するが、東西方向に軸を持つ畦畔は地形の影響を受けたためか、湾曲あるいは斜行する畦畔もある。水田面は113面である。各1面は概ね東西・南北正方位を指向した畦畔によって区画されているため条里型水田と考察出来る。6・7・9区では畦畔中央に溝(W-13)をもつ大畦畔が確認された。この畦畔は9区中央を東西に走行し、9区東端で南方へL字状に屈曲し、7区・6区を南北に走行する。規模は、上端0.92m～1.56m、下端1.2m～2.27m、高さ0.08mを測る。他の畦畔と比較して大型であり、埤境畦畔と考えられる。また、中央に溝(W-12)を有する大型の畦畔の下層にはW-56・57が検出されており(畦畔断面図21～23)、5区北端から、3区を走行して4区内でW-12が東に屈曲するまでの間は、W-56(・57)の上に畦畔を造っていると推測される。耕作土 黒褐色粘質土(Ⅱ層)を水田耕作土とし、厚さは0.03m～0.24mと堆積厚の差は大きい、概ね0.13m程度の厚さである。取配水の方法

水田面全体では、As-B一次堆積層(XII層)で埋没した溝を10条、水口は30ヶ所を検出した。検出した溝のうちW-12・13・22・23はAs-B一次堆積層を覆土とする。これらは畦畔と平行に走行し、取配水の水路と考えられる。地形の状況と水口的位置関係から、W-12は北西から南東へ配水し、W-13は西から東、北から南へ配水したと考えられる。W-22・23は西から東へ配水したと考えられる。このうち、W-12・13・23は畦畔の中央を走行する。W-23は2区を東西方向に走行するやや大型の畦畔の中央を走行する。窪みAs-B一次堆積層で埋没した形状の不整形な窪みが2・4・6区で検出され、とりわけ6区に集中している。土坑として報告しているが、D-2もAs-B一次堆積層(XII層)で埋没した窪みと同一の遺構である。歩行列馬と考えられる動物の足跡を1・6区で検出した。1区では南西-北東に歩行し、6区では南北に歩行する。足跡は畦畔上に確認されたが覆土はAs-B一次堆積層であったためAs-B降下前と判断した。形状は楕円-円形状であり、蹄跡は観察されなかったものの、無数の凹凸をなして検出したことから歩行列とした。As-B降下前のイネが生殖していた箇所を通行していたとは考えられないため、休耕地ないし耕作放棄地であったと考えられる。

出土遺物 土師器の坏・甕、須恵器の甕が数点出土しているが、いずれも小片のため図示しなかった。また、畦畔上に置石を8個確認した。時期 As-B一次堆積層に直接被覆されていることから時期は平安時代末期と考えられる。

(2) 溝・土坑 (Fig. 4~17, Tab. 2, PL. 1~7)

溝が10条、土坑が1基検出された。溝・土坑の計測値については「Tab. 2 第1面溝・土坑計測表」を参照されたい。いずれの溝もAs-B一次堆積層を覆土としており、遺物の出土は無かった。W-12・13・22・23は畦畔に伴って直線的に走向する特徴があり、As-B下水田の配水路といえる。W-6a~6c・8・30・31はAs-B一次堆積層を覆土とするが、走向軸が畦畔と異なり規則性がないことから、平安時代末期の自然流路と判断した。

検出したD-2は重複・出土遺物はないが、覆土がAs-B一次堆積層であることから水田と同時期と考えられる。なお、前述した通りD-2は6区で多量に検出された窪みの一つと考えられる。

Tab. 2 第1面溝・土坑計測表

溝坑名	時期	位置	主軸方向	確認長 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	断面形状	遺物	備考
W-1	中世以降	X=49,252 Y=70,968-70,112	N-47-E	158.31	0.18-1.73	0.08-1.11	0.15-0.23	溝状	弥生器環1。	
W-2	中世以降	X=49,261-49,245 Y=70,185-70,189	N-12-E	56.16	0.09-1.15	0.06-0.61	0.30	溝状		
W-3	中世以降	X=49,262-49,264 Y=70,108-70,111	N-71-W	3.34	0.18-0.75	0.08-0.27	0.28	溝状	土師器環1。	
W-4	中世以降	X=49,267-49,251 Y=70,075-70,106	N-24-W N-77-W	92.55	0.13-1.94	0.02-1.03	0.09	溝状	土師器環2、縄文土器1。	
W-5	中世以降	X=49,265-49,260 Y=70,074-70,109	N-39-W	193.33	0.21-1.36	0.01-1.11	0.12	溝状	須恵器坏・甕各2、土師器環2・甕4、縄文土器1。	
W-6a	平安時代末期	X=49,269-49,311 Y=70,131-70,134	N-46-E N-26-W	46.04	0.33-1.66	0.1-0.43	0.13	溝状		As-B下水田と同時期。
W-6b	平安時代末期	X=49,294-49,302 Y=70,131-70,134	N-27-E	7.72	0.13-0.73	0.04-0.28	0.08	溝状		As-B下水田と同時期。
W-6c	平安時代末期	X=49,304-49,307 Y=70,110-70,125	N-79-W	13.42	0.44-0.89	0.2-0.40	0.14	溝状		As-B下水田と同時期。
W-8	平安時代末期	X=49,260-49,265 Y=70,111-70,134	N-56-E	23.8	0.35-0.77	0.1-0.43	0.03	溝状		As-B下水田と同時期。
W-9	中世以降	X=49,266-49,312 Y=70,103-70,105	N-14-W	15.36	0.43-1.06	-	0.2	溝状		
W-10	中世以降	X=49,268-49,280 Y=70,059-70,062	N-26-E N-19-E	29.77	1.16-2.32	-	0.89	溝状		
W-12	平安時代末期	X=49,210-49,271 Y=70,066-70,108	N-31-W N-79-W	80.60	0.34-1.26	0.06-0.61	0.12	溝状		As-B下水田と同時期。
W-13	平安時代末期	X=49,262-49,323 Y=70,163-70,219	N-85-W N-27-E	57.1	0.29-0.88	0.11-0.43	0.17	溝状		As-B下水田と同時期。
W-14	中世以降	X=49,300-49,335 Y=70,170-70,186	N-67-W N-18-W	43.99	0.13-1	0.3-0.56	0.04	溝状		
W-15	中世以降	X=49,255-49,268 Y=70,130-70,140	N-43-E	25.14	0.09-0.39	0.02-0.22	0.03	溝状		
W-16	中世以降	X=49,252-49,266 Y=70,116-70,126	N-32-W	25.15	0.16-1.73	0.04-1.24	0.17	溝状		
W-20	中世以降	X=49,331-49,336 Y=70,197-70,202	N-44-E	6.35	0.47-0.89	0.14-0.66	0.07	溝状		
W-21	中世以降	X=49,322-49,325 Y=70,204	N-57-W	2.89	0.22-0.43	0.1-0.26	0.03	溝状		
W-22	平安時代末期	X=49,261-49,266 Y=70,062-70,067	N-44-E	15.27	0.22-0.43	0.1-0.02	0.07	溝状		As-B下水田と同時期。
W-23	平安時代末期	X=49,251-49,253 Y=70,044-70,044	N-45-W	22.47	0.17-0.72	0.06-0.43	0.11	溝状		As-B下水田と同時期。
W-24	中世以降	X=49,236-49,252 Y=70,057-70,065	N-99-W	40.63	0.31-1.38	0.07-1.26	0.15	溝状		As-B下水田と同時期。
W-30	平安時代末期	X=49,228-49,241 Y=70,049-70,052	N-40-W	5.47	0.19-0.59	0.02-0.24	0.04	溝状		As-B下水田と同時期。
W-31	平安時代末期	X=49,266-49,268 Y=70,103-70,105	N-41-W	2.42	0.29-0.35	0.07-0.18	0.12	溝状		As-B下水田と同時期。
W-32	中世以降	X=49,256-49,262 Y=70,134-70,136	N-47-W	0.57	0.31-0.35	0.05-0.15	0.19	溝状		
W-34	中世以降	X=49,264-49,222 Y=70,059-70,069	N-62-E N-97-E	28.39	0.17-1.16	0.03-0.63	0.30	溝状	須恵器甕1、不明遺物1。	
W-36	中世以降	X=49,190-49,203 Y=70,070-70,075	N-51-W	4.84	0.36-0.8	0.14-0.53	0.06	溝状		
W-37	中世以降	X=49,217-49,220 Y=70,067-70,071	N-67-W	4.07	0.47-1.33	0.21-0.68	0.04	溝状		

測線名	時期	位置	主軸方向	確認長 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	断面形状	測物	備考
Ⅱ-38	平成13年	X=4214 Y=2064 Z=7049	21-40°-W	5.15	0.35-0.69	0.04-0.26	0.02	扇状		
Ⅱ-39	平成13年	X=4214 Y=2032 Z=7047	21-30°-W	8.0	0.3-0.32	0.08-0.14	0.05	扇状		
Ⅱ-40	平成13年	X=4202 Y=2063 Z=7049	N-42°-W	5.9	0.2-0.39	0.04-0.29	0.05	扇状		

測線名	位置	真軸 (m)	深さ (m)	断面形状	測物	真軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形状	測物
D-1	X=49.311 Y=70.011 Z=61.012	0.17	0.06	0.08	扇形/円形					
D-2	X=49.252 Y=70.106 Z=71.127	0.9	0.42	0.1	扇形					

測線名	位置	真軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	断面形状	測物
D-4	X=49.321 Y=70.162 Z=70.104	2.59	2.02	0.26	扇台形	扇台形/円形

Tab. 3 第1面 As-B 下水計測表

測線区	出流	グリッド	面積 (㎡)	真軸 (m)	短軸 (m)	標高 (m)					備考
						NW	NE	中央	SW	SE	
9区 1		X=49348 Y=70203 Z=70217	(14367)	(14.1)	6.41	1336	133.41	133.36	133.39	133.41	
9区 2		X=49351 Y=70196 Z=70202	(12264)	(5.7)	(4.4)	133.44	-	133.42	133.39	133.41	東西に亘る。
9区 3		X=49358 Y=70183 Z=70185	(24086)	(13.3)	(9.4)	13336	133.34	133.36	133.26	133.33	北・東西に亘る。
9区 4		X=49336 Y=70174 Z=70184	(3034)	(10.6)	(4.2)	133.33	-	133.33	133.33	133.33	
9区 5		X=49327 Y=70211 Z=70214	(8132)	(14.0)	(2.6)	133.27	133.26	133.26	-	133.27	東西に亘る。
9区 6		X=49331 Y=70195 Z=70211	(14137)	(16.2)	(10.0)	133.29	133.28	133.26	133.28	133.24	
9区 7		X=49323 Y=70195 Z=70211	(13105)	(15.4)	9.2	133.28	133.23	133.24	133.24	133.24	
9区 8		X=49321 Y=70174 Z=70195	(12280)	(19.5)	7.9	133.26	133.24	133.26	133.23	133.26	
9区 9		X=49322 Y=70173 Z=70195	(11464)	(19.4)	9.6	133.22	133.24	133.23	133.19	133.19	
9区 10		X=49318 Y=70159 Z=70175	(14789)	(15.6)	(12.2)	133.17	133.14	133.14	133.14	133.16	133.09
9区 11		X=49314 Y=70204 Z=70191	(17769)	(7.4)	(5.9)	133.23	133.16	133.16	133.14	133.14	
9区 12		X=49312 Y=70193 Z=70204	(8045)	(10.4)	8.5	133.16	133.13	133.16	133.14	133.14	東西に亘る。
9区 13		X=49312 Y=70183 Z=70194	(8235)	(9.8)	8.6	133.11	133.11	133.13	133.08	133.07	
9区 14		X=49311 Y=70174 Z=70183	(7562)	(8.2)	8.4	133.11	133.09	133.11	133.09	133.07	東西に亘る。
9区 15		X=49311 Y=70180 Z=70174	(8350)	(9.1)	8.6	133.11	133.07	133.13	133.11	133.08	北・東西に亘る。
9区 16		X=49306 Y=70204 Z=70208	(18890)	(7.8)	(4.5)	133.11	133.11	133.11	-	133.15	
9区 17		X=49303 Y=70194 Z=70205	(9139)	(13.3)	(9.7)	133.14	133.06	133.11	133.11	133.02	東西に亘る。
9区 18		X=49302 Y=70184 Z=70194	(19154)	(26.0)	(8.5)	133.06	133.01	133.03	133.02	133.02	北・南・東西に亘る。
9区 19		X=49297 Y=70194 Z=70205	(5230)	(10.0)	(5.8)	133.08	133.07	133.08	133.06	133.09	
9区 20		X=49296 Y=70184 Z=70194	(13565)	(29.7)	(6.3)	133.04	133.02	132.99	133.04	133.04	北・南・東西に亘る。
9区 21		X=49280 Y=70195 Z=70195	(11546)	(17.0)	(9.6)	133.03	133.02	132.97	132.98	132.96	
9区 22		X=49285 Y=70187 Z=70195	(19443)	(26.9)	(10.4)	133.01	133.04	132.96	132.94	132.94	北に亘る。
9区 23		X=49285 Y=70187 Z=70195	(15327)	(18.3)	(9.7)	132.93	132.94	132.94	132.94	132.96	東西に亘る。
9区 24		X=49278 Y=70198 Z=70198	(14789)	(7.9)	(6.9)	132.95	132.94	132.94	132.94	132.96	東西に亘る。
9区 25		X=49273 Y=70193 Z=70195	(4282)	(5.7)	(2.8)	132.91	132.92	132.93	132.91	132.91	北・南に亘る。
9区 26		X=49265 Y=70193 Z=70196	(4077)	(5.1)	(2.3)	-	132.94	132.96	132.95	133.01	
9区 27		X=49255 Y=70194 Z=70196	(11424)	(8.1)	(2.5)	132.94	132.93	133.04	133.04	133.04	
9区 28		X=49265 Y=70189 Z=70190	(9004)	(13.2)	(8.2)	132.94	132.96	132.97	132.91	132.87	
9区 29		X=49258 Y=70189 Z=70190	(11328)	(4.4)	(4.0)	132.94	132.91	132.94	132.98	-	
9区 30		X=49267 Y=70187 Z=70189	(8105)	(6.0)	(2.5)	-	132.86	132.86	-	132.86	
9区 31		X=49269 Y=70180 Z=70183	(10966)	(11.8)	(6.2)	133.19	133.23	133.12	133.07	133.07	
9区 32		X=49265 Y=70186 Z=70183	(12291)	(4.8)	(3.7)	133.04	133.09	133.07	133.04	133.06	
9区 33		X=49263 Y=70183 Z=70183	(18109)	(16.8)	(7.4)	133.14	133.17	133.13	133.03	133.11	
9区 34		X=49215 Y=70123 Z=70129	(2774)	(4.5)	(3.5)	133.26	-	133.23	133.23	133.19	
9区 35		X=49215 Y=70110 Z=70111	(8221)	(0.5)	(0.5)	-	-	-	-	133.94	
9区 36		X=49215 Y=70109 Z=70111	(808)	(0.7)	(0.2)	-	-	-	-	132.97	
9区 37		X=49208 Y=70119 Z=70127	(2338)	(7.4)	(6.9)	133.17	133.13	133.08	133.08	133.07	
9区 38		X=49207 Y=70119 Z=70125	(24577)	(5.7)	(4.6)	133.07	133.04	132.96	133.09	132.94	南に亘る。
9区 39		X=49205 Y=70111 Z=70119	(4179)	(8.2)	8.1	-	132.96	132.96	132.99	132.93	
9区 40		X=49206 Y=70201 Z=70111	(12465)	(8.7)	8.3	132.96	-	132.97	132.87	132.84	
9区 41		X=49208 Y=70119 Z=70127	(546)	(4.2)	(2.5)	-	-	132.79	132.81	-	
9区 42		X=49202 Y=70161 Z=70163	(2305)	(2.3)	(1.7)	133.03	133.02	-	133.01	-	
9区 43		X=49207 Y=70163 Z=70169	(16000)	(6.0)	(3.7)	-	133.02	132.98	132.96	132.98	
9区 44		X=49207 Y=70129 Z=70144	(9532)	(14.4)	(7.9)	132.97	133.06	133.03	132.96	133.04	
9区 45		X=49207 Y=70117 Z=70123	(92373)	(6.5)	(4.4)	133.01	132.97	132.99	132.94	132.96	北に亘る。
9区 46		X=49208 Y=70113 Z=70119	(3278)	(6.9)	(4.7)	132.96	132.92	132.82	132.96	132.93	
9区 47		X=49209 Y=70103 Z=70113	(5033)	(9.4)	(6.1)	132.94	132.84	132.83	132.89	132.87	
9区 48		X=49209 Y=70145 Z=70155	(3821)	(8.3)	(8.5)	132.93	132.96	132.93	132.91	132.93	
9区 49		X=49203 Y=70129 Z=70145	(2847)	(17.4)	(6.0)	132.93	132.94	132.92	-	-	
9区 50		X=49209 Y=70110 Z=70121	(9683)	(7.7)	(5.9)	132.93	132.88	132.86	132.86	132.84	東西に亘る。
9区 51		X=49202 Y=70103 Z=70111	(4417)	(8.0)	(7.1)	132.87	132.82	132.84	132.81	132.79	
9区 52		X=49208 Y=70109 Z=70109	(26073)	(19.7)	(7.6)	132.79	132.73	132.73	132.74	132.73	北・南に亘る。
9区 53		X=49205 Y=70106 Z=70106	(3127)	(8.0)	(5.2)	132.82	132.83	132.84	132.66	132.59	
9区 54		X=49201 Y=70084 Z=70090	(34229)	(9.3)	(3.7)	132.82	-	132.77	132.56	132.57	
9区 55		X=49201 Y=70074 Z=70083	(1148)	(8.7)	(1.2)	-	-	-	132.56	132.46	
9区 56		X=49209 Y=70130 Z=70140	(18718)	(27.1)	(9.4)	132.87	132.87	132.79	132.79	132.78	
9区 57		X=49207 Y=70145 Z=70153	(6254)	(8.7)	(8.1)	132.86	132.81	132.83	-	132.81	
9区 58		X=49207 Y=70131 Z=70143	(104773)	(12.5)	(10.8)	132.81	132.87	132.79	132.79	132.73	
9区 59		X=49209 Y=70124 Z=70135	(7906)	(11.6)	(7.7)	132.83	132.83	132.82	132.82	132.83	
9区 60		X=49201 Y=70105 Z=70119	(19603)	(12.9)	(9.3)	132.84	132.74	132.76	132.71	132.76	北・南に亘る。
9区 61		X=49202 Y=70097 Z=70105	(8477)	(12.1)	(8.1)	132.72	132.68	132.74	132.74	132.76	
9区 62		X=49211 Y=70091 Z=70097	(8420)	(17.3)	(5.9)	132.63	132.56	132.56	132.57	132.52	
9区 63		X=49219 Y=70084 Z=70091	(6136)	(10.3)	(6.1)	132.53	132.52	132.51	132.54	132.52	
9区 64		X=49201 Y=70075 Z=70085	(8705)	(10.7)	(9.9)	132.52	132.43	132.44	132.47	132.46	南に亘る。
9区 65		X=49201 Y=70062 Z=70045	(6392)	(12.9)	(9.6)	132.44	-	132.44	132.42	132.43	南・西に亘る。
9区 66		X=49201 Y=70123 Z=70154	(4071)	(10.4)	(8.1)	132.83	132.78	132.71	132.62	132.77	南・東西に亘る。
9区 67		X=49203 Y=70119 Z=70119	(3418)	(14.4)	(3.3)	132.77	132.73	132.69	132.62	-	

調査区	田番	グリッド	面積 (㎡)	員数 (人)	箱数 (箱)	標高 (m)					備考
						NW	NE	中央	SW	SE	
3区	66	X=49265-49277 Y=70107-70115	19427	124	43	132.78	-	132.72	132.63	132.64	南西に在り。
1-3区	69	X=49271-49281 Y=70095-70109	70390	187	159	132.72	132.64	132.61	132.58	-	南西に在り。
1区	70	X=49289-49291 Y=70095-70095	0.16	0(0)	0(0)	-	132.96	-	-	-	-
1区	71	X=49265-49279 Y=70085-70095	99630	1145	91	132.54	132.52	132.52	132.54	-	-
1区	72	X=49265-49281 Y=70076-70085	11292	153	96	132.44	132.43	132.44	132.49	132.42	-
1区	73	X=49265-49281 Y=70069-70077	10346	159	82	132.41	132.41	132.39	132.41	132.37	-
1区	74	X=49265-49281 Y=70062-70071	10682	161	93	132.41	132.41	132.41	132.36	-	北西に在り。
1-2区	75	X=49265-49280 Y=70053-70064	96813	1846	72	132.32	132.22	132.24	132.23	132.23	南西に在り。
2区	76	X=49265-49274 Y=70041-70055	17660	1149	1145	132.16	-	132.12	132.19	132.04	南西に在り。
6区	77	X=49250-49260 Y=70117-70124	21160	362	197	132.77	132.67	132.69	132.64	132.67	北-北西に在り。
6区	78	X=49257-49264 Y=70111-70142	150196	283	188	132.69	132.62	132.58	132.62	132.54	-
3区	79	X=49258-49266 Y=70103-70110	17877	77	157	132.66	132.64	132.52	132.52	132.58	北東に在り。
3区	80	X=49252-49260 Y=70098-70107	40480	72	46	132.57	132.54	132.57	132.64	132.61	北東-南西に在り。
3区	81	X=49241-49253 Y=70093-70105	90560	368	96	132.64	132.65	132.56	132.59	132.57	北東-南に在り。
1-3区	82	X=49252-49264 Y=70085-70100	46730	153	114	132.57	132.53	132.43	132.49	132.48	北西に在り。
3区	83	X=49241-49253 Y=70084-70094	5983	114	67	132.53	132.44	132.49	132.49	132.48	南西に在り。
1区	84	X=49258-49264 Y=70080-70085	18355	59	49	132.49	132.44	132.40	132.41	132.37	-
1区	85	X=49254-49264 Y=70072-70080	16377	94	75	132.43	132.36	132.36	132.24	132.17	北東に在り。
1-3区	86	X=49244-49254 Y=70073-70087	3730	134	101	132.36	132.24	-	132.46	132.42	-
1-2区	87	X=49248-49264 Y=70062-70072	48390	156	91	132.33	132.21	132.21	132.21	132.26	北西に在り。
2区	88	X=49244-49256 Y=70062-70067	15142	142	44	132.24	132.24	132.17	132.16	132.21	南に在り。
2区	89	X=49253-49264 Y=70049-70062	13144	126	103	132.21	132.14	132.16	132.19	132.13	南西に在り。
2区	90	X=49253-49264 Y=70043-70049	25260	111	152	132.09	132.03	-	132.09	132.05	-
6区	91	X=49255-49258 Y=70107-70123	14177	148	123	132.56	132.52	132.49	-	132.49	-
3区	92	X=49258-49243 Y=70087-70103	114330	149	143	132.48	132.37	132.32	132.31	132.56	-
3-4区	93	X=49255-49251 Y=70084-70095	1843	98	127	132.48	-	-	132.52	132.54	-
3区	94	X=49252-49255 Y=70096-70099	6390	140	138	132.54	132.51	132.56	-	-	-
4区	95	X=49211-49230 Y=70072-70096	22230	207	197	132.48	132.35	132.56	132.56	132.53	-
3-4区	96	X=49229-49243 Y=70075-70087	15790	1340	71	132.47	132.46	132.47	132.57	132.53	北西-南に在り。
4区	97	X=49232-49244 Y=70071-70079	42897	113	59	132.43	132.37	132.41	132.54	132.51	-
4区	98	X=49233-49243 Y=70066-70073	19480	94	48	132.36	-	132.36	132.49	132.47	-
4区	99	X=49233-49230 Y=70075-70080	1923	61	38	132.56	132.50	132.56	132.56	132.54	-
4区	100	X=49224-49233 Y=70066-70076	16840	101	84	132.53	132.47	132.48	132.51	132.49	北西に在り。
4区	101	X=49224-49218 Y=70070-70077	2476	58	50	132.53	132.51	132.48	132.52	132.47	-
4区	102	X=49225-49219 Y=70066-70073	11745	51	46	132.46	132.46	132.43	132.45	132.42	-
4区	103	X=49239-49236 Y=70061-70073	16405	278	119	132.36	132.34	132.38	132.40	132.32	-
2区	104	X=49225-49252 Y=70050-70062	13274	153	119	132.12	132.11	132.09	132.14	132.19	北西に在り。
2区	105	X=49229-49251 Y=70042-70051	13890	211	40	132.07	132.02	132.04	132.07	132.13	-
4区	106	X=49223-49233 Y=70047-70041	16521	133	97	132.39	-	132.38	132.27	132.16	-
4区	107	X=49238-49223 Y=70047-70041	13018	147	133	132.31	132.17	132.13	132.36	132.31	-
2区	108	X=49221-49247 Y=70032-70043	7953	139	87	132.01	131.86	131.86	132.07	132.03	-
2区	109	X=49229-49231 Y=70041-70043	3103	29	127	132.00	132.06	-	132.08	-	-
4区	110	X=49210-49212 Y=70085-70087	1194	24	112	-	132.47	-	-	-	-
4区	111	X=49196-49211 Y=70087-70084	16940	253	131	132.49	132.31	132.31	132.44	132.37	-
4区	112	X=49203-49205 Y=70075-70077	1640	17	103	-	132.41	-	-	-	-
4区	113	X=49203-49204 Y=70073-70075	1182	13	69	132.46	-	-	-	-	-

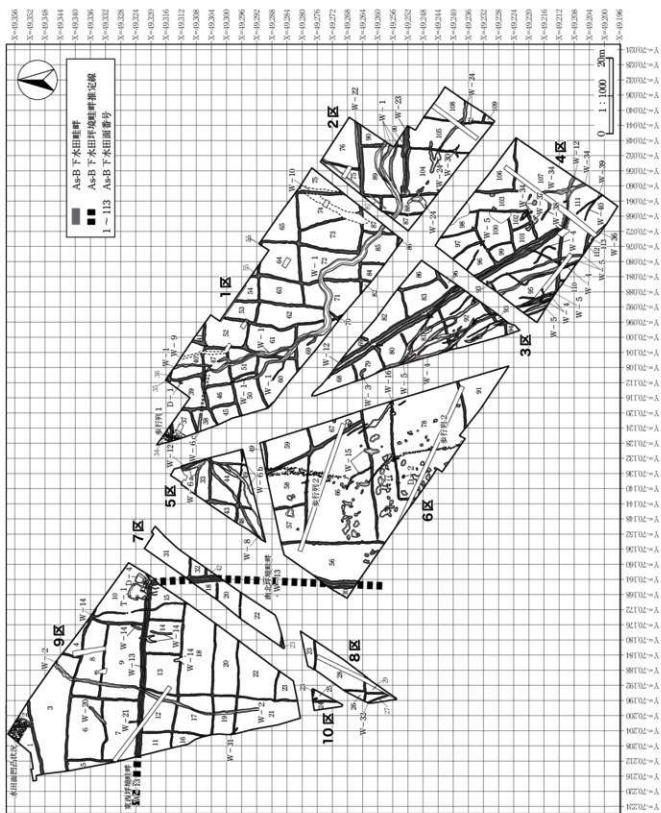


Fig. 4 第1面全体图

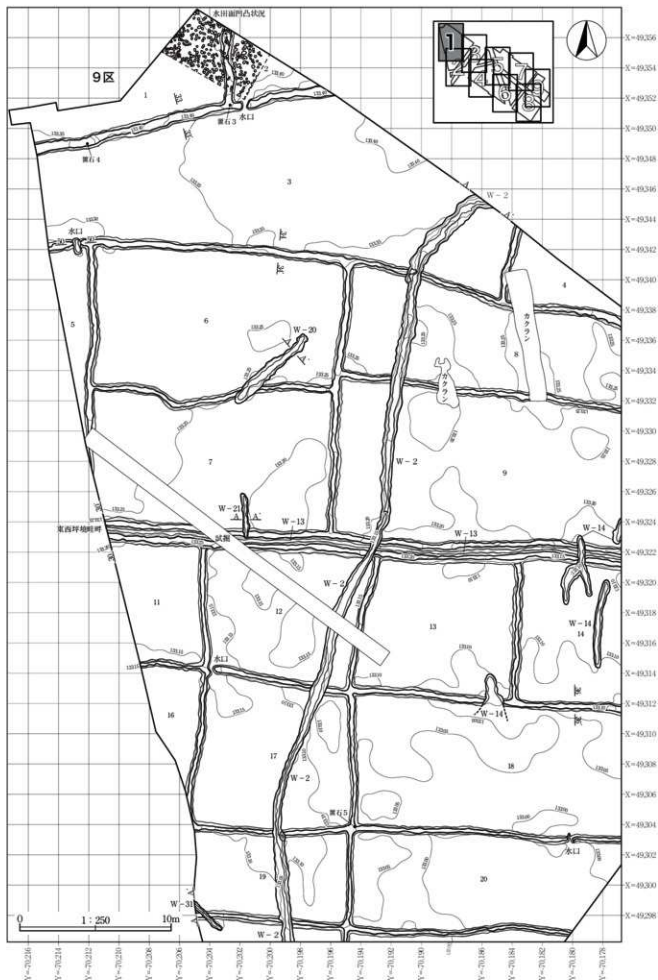


Fig.5 第1面全体图(1)

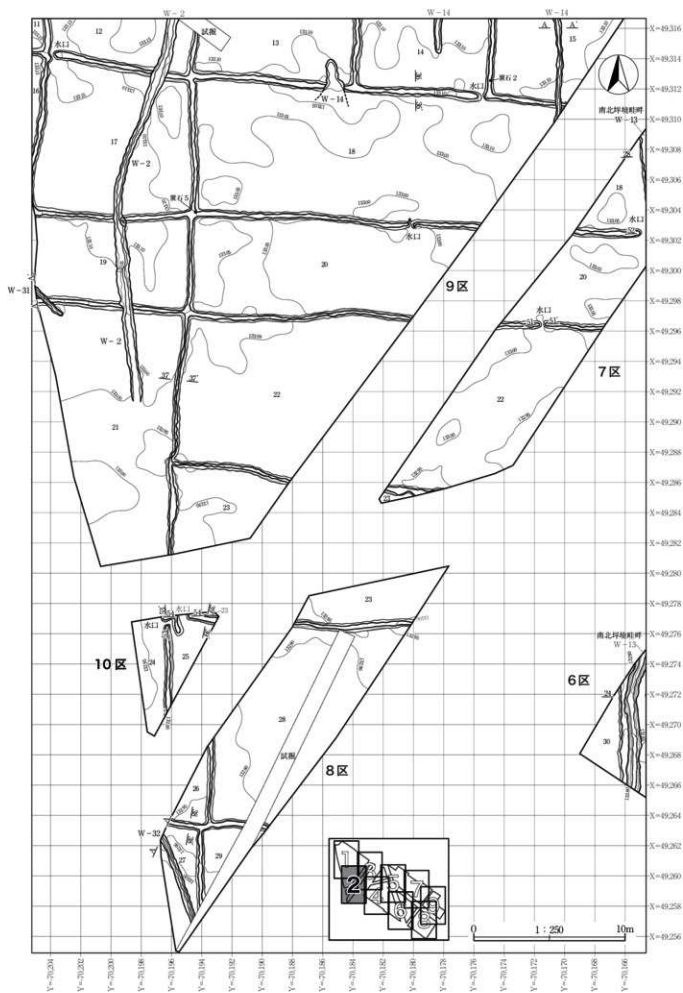


Fig.6 第1面全体图 (2)

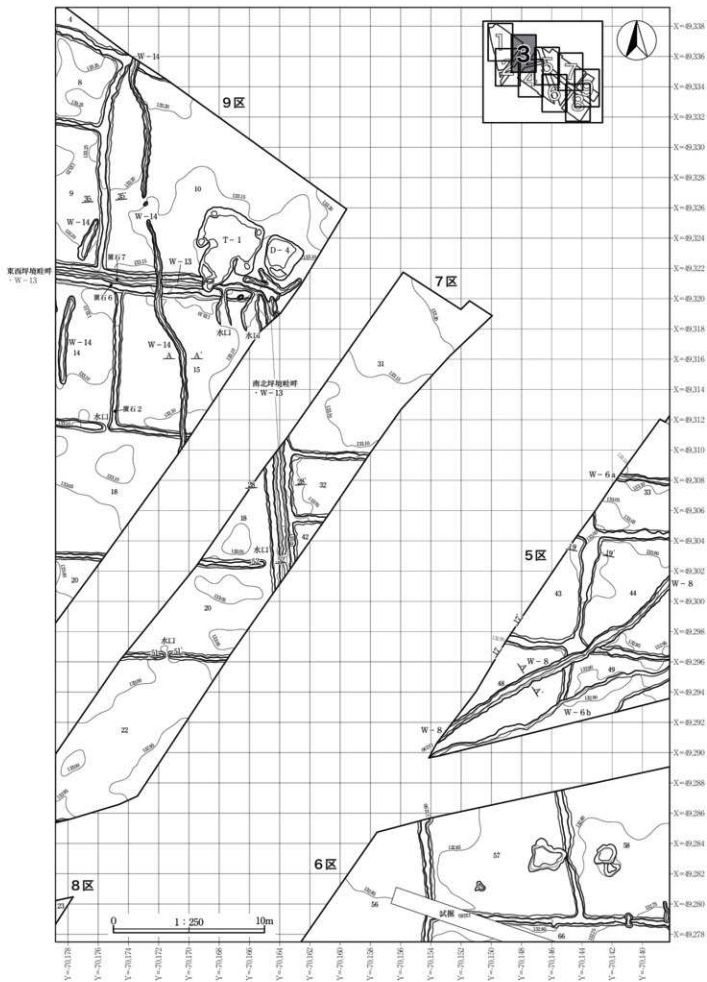


Fig.7 第1面全体图(3)

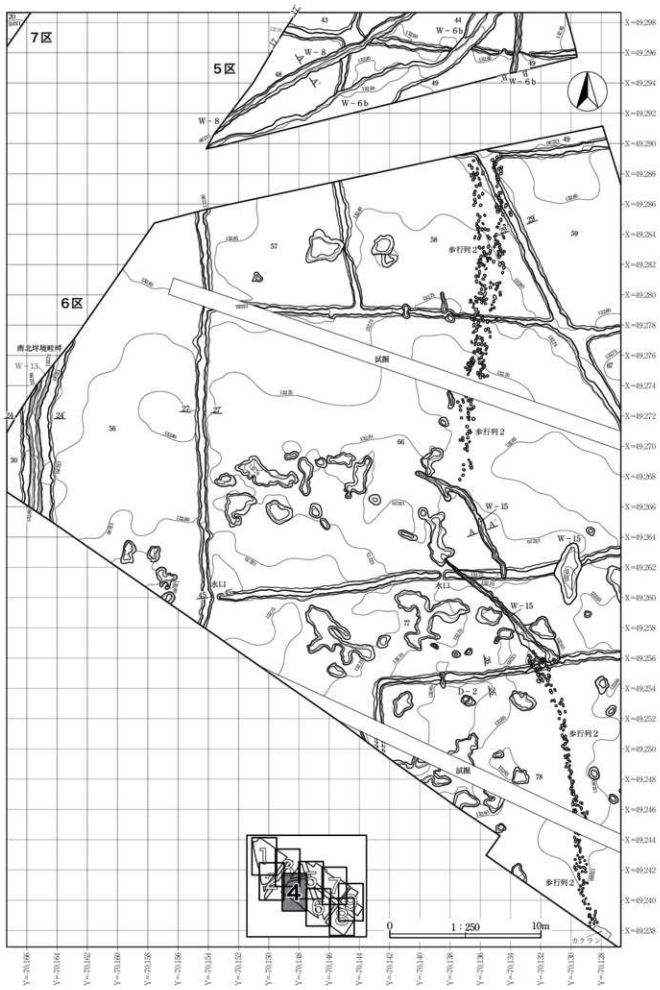


Fig.8 第1面全体図(4)

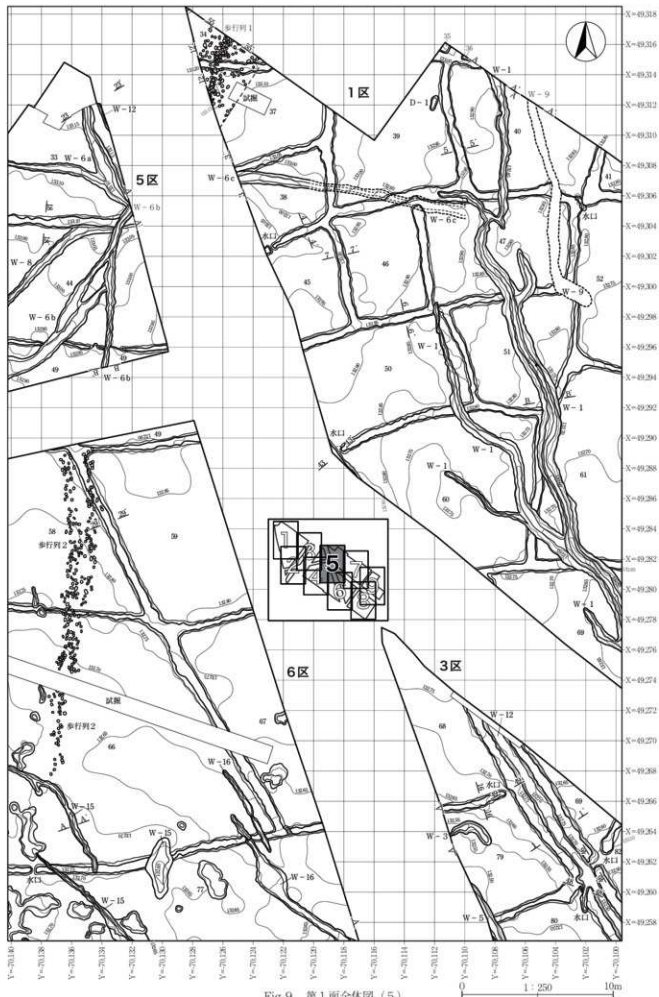


Fig.9 第1面全体图(5)

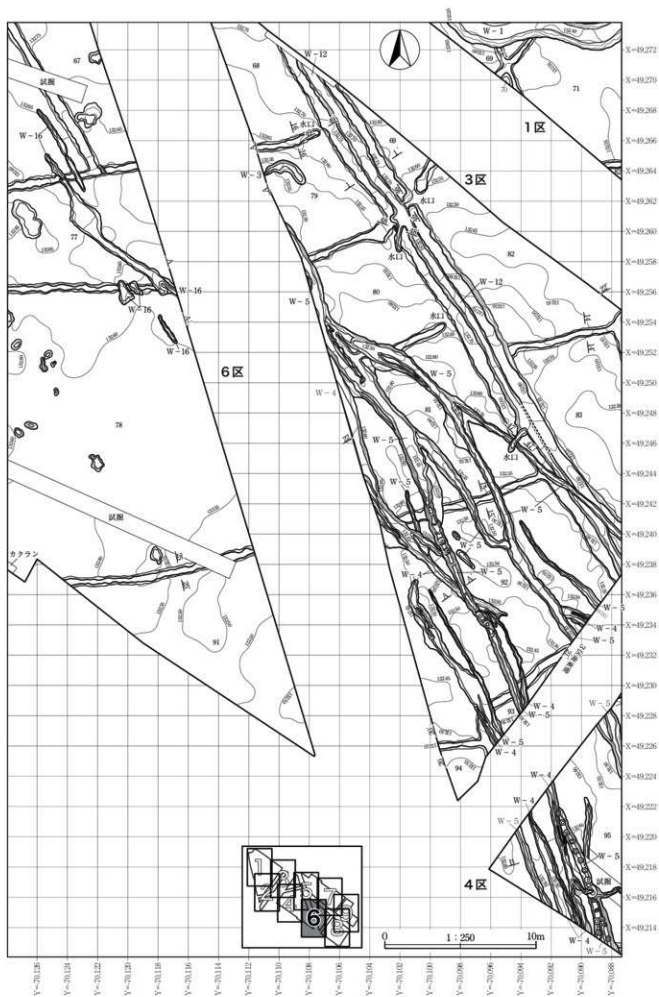


Fig.10 第1面全体図(6)



Fig.12 第1面全体図 (8)

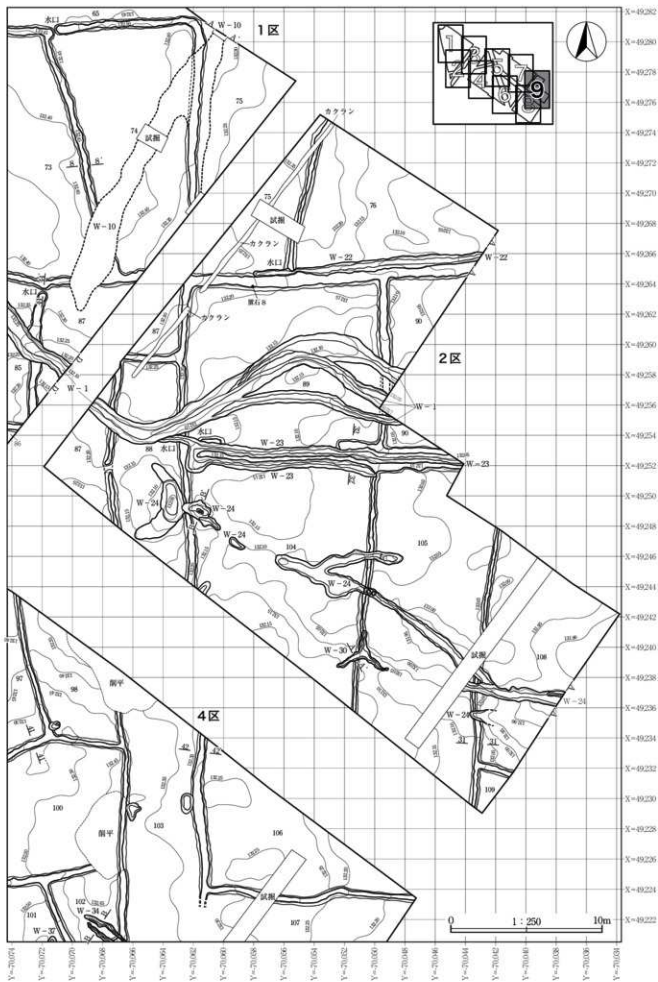


Fig.13 第1面全体図 (9)

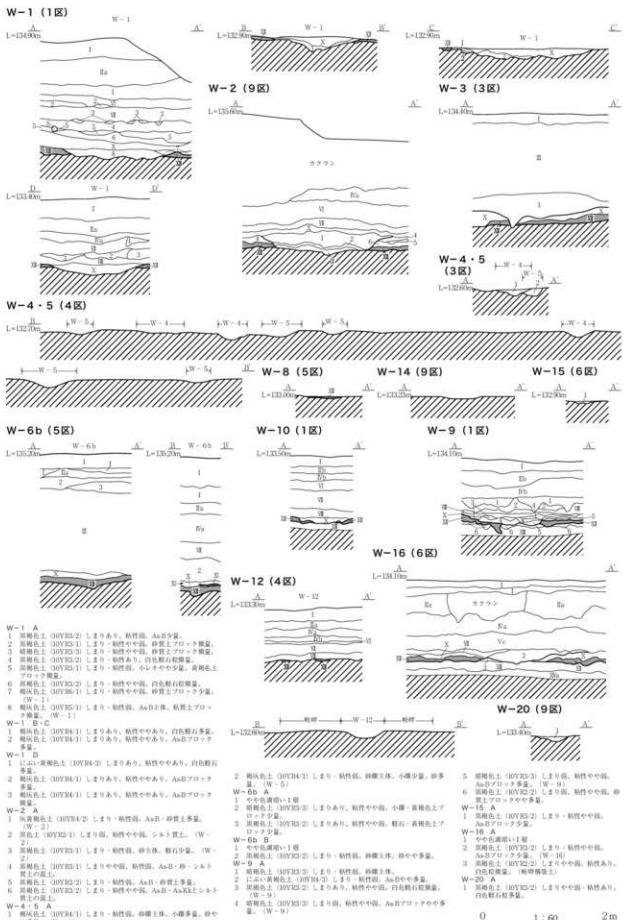
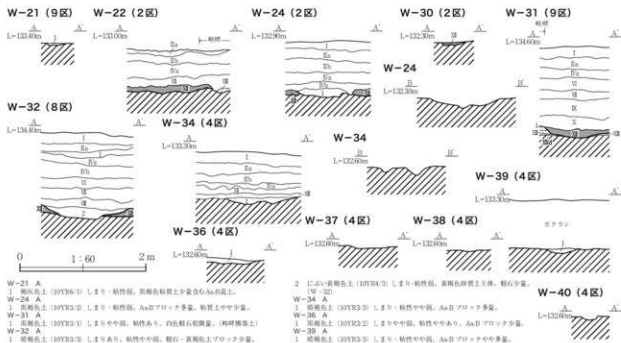


Fig.14 第1面溝断面図 (1)



T-1・D-4 (9区)

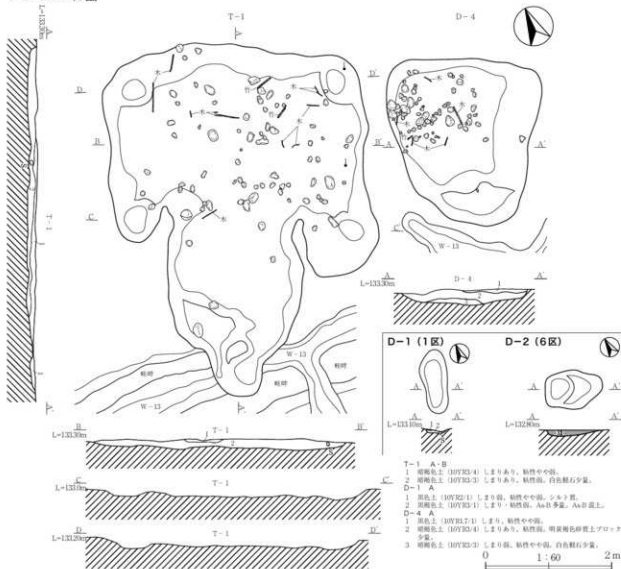
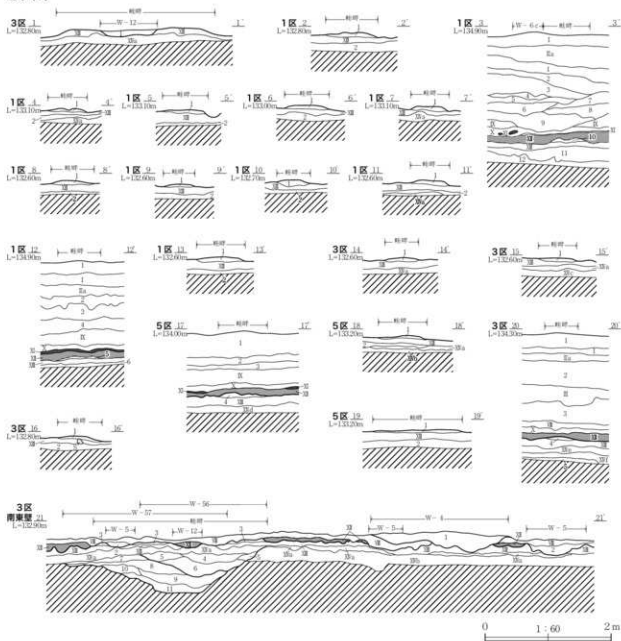


Fig.15 第1面溝断面図(2)、堅穴状遺構と土坑平面・断面図

畦畔 (1)



畦畔 1

1 黒礫土 (10YR3/4) しまり・粘性低、粗粒砂主体、小礫少量。(W-12)

畦畔 2-4-11

1 黒礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。(黒研礫層土)

2 黒礫土 (10YR3/4) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。

畦畔 3

1 腐礫土 (10YR3/2) しまりあり、粘性中程度、砂少量、白色粘石粘礫量。

2 腐礫土 (10YR3/2) しまりあり、粘性中程度、砂少量、白色粘石粘礫量・小礫少量。

3 腐礫土 (10YR3/2) しまりあり、粘性中程度、砂少量、白色粘石粘礫量。

4 腐礫土 (10YR3/2) しまりあり、粘性中程度、砂少量、堆砂土。

5 腐礫土 (10YR3/2) しまりあり、粘性中程度、砂少量、白色粘石粘礫量。

6 腐礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性低、堆砂土体、(自然砂礫)

8 腐礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性中程度、砂少量、白色粘石粘礫量。

9 腐礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性低、砂少量、(自然砂礫)

10 腐礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。(黒研礫層土)

11 腐礫土 (10YR3/2) しまり・粘性あり。

12 腐礫土 (10YR3/4) しまり中程度、粘性あり、白色粘石少量。

畦畔 12

1 腐礫土 (10YR3/2) しまりあり、粘性中程度、砂少量、白色粘石粘礫量。

2 腐礫土 (10YR3/2) しまりあり、粘性中程度、砂少量、白色粘石粘礫量。

3 腐礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性中程度、砂少量、白色粘石粘礫量。

4 腐礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。(黒研礫層土)

5 腐礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性中程度。

畦畔 13

1 黒礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。(黒研礫層土)

2 黒礫土 (10YR3/4) しまり中程度、粘性低、砂少量、白色粘石粘礫量。

畦畔 14-15

1 黒礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。(黒研礫層土)

畦畔 16

1 黒礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。(黒研礫層土)

2 黒礫土 (10YR3/4) しまり中程度、粘性低、砂少量、白色粘石粘礫量。

畦畔 17

1 腐礫土 (10YR3/4) しまり・粘性あり、黄色土ブロック多量、粘質土層。

2 腐礫土 (10YR3/2) しまり・粘性あり、(自然砂礫)・黄色土ブロック多量、粘質土層。

3 腐礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性低、堆砂土体、粗面褐色小礫多量、砂少量含む。

4 腐礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量中程度、粘質土。(黒研礫層土)

畦畔 18-19

1 黒礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。(黒研礫層土)

2 黒礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性低、黒粘土粘石少量。

畦畔 20

1 中程度調湿1層

2 腐礫土 (10YR3/2) しまり・粘性あり、黄色土ブロック多量、小礫少量。

3 腐礫土 (10YR3/1) しまり・粘性あり、黄色土・黄色土ブロック多量、小礫少量。

4 腐礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫量。(黒研礫層土)

5 腐礫土 (10YR3/2) しまり・粘性中程度、黄色土ブロック多量、小礫中多量。

畦畔 21

1 腐礫土 (10YR3/4) しまり・粘性低、堆砂土体、礫中多量、砂多量。(W-4)

2 腐礫土 (10YR3/1) しまり・粘性低、砂少量、小礫少量。(W-5)

3 腐礫土 (10YR3/1) しまり中程度、粘性あり、白色粘石粘礫少量。(黒研礫層土)

4 腐礫土 (10YR3/1) しまり・粘性低、堆砂土体、砂・小礫中多量。(W-56)

5 赤礫土 (10YR3/4) しまり中程度、粘性低、白色粘石粘礫少量。(W-56)

6 赤礫土 (10YR3/2) しまり・粘性低、小礫少量、粗粒砂多量含む。(W-56)

7 赤礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性低、白色粘石粘礫量。(W-57)

8 赤礫土 (10YR3/2) しまり中程度、粘性低、白色粘石粘礫少量。(W-57)

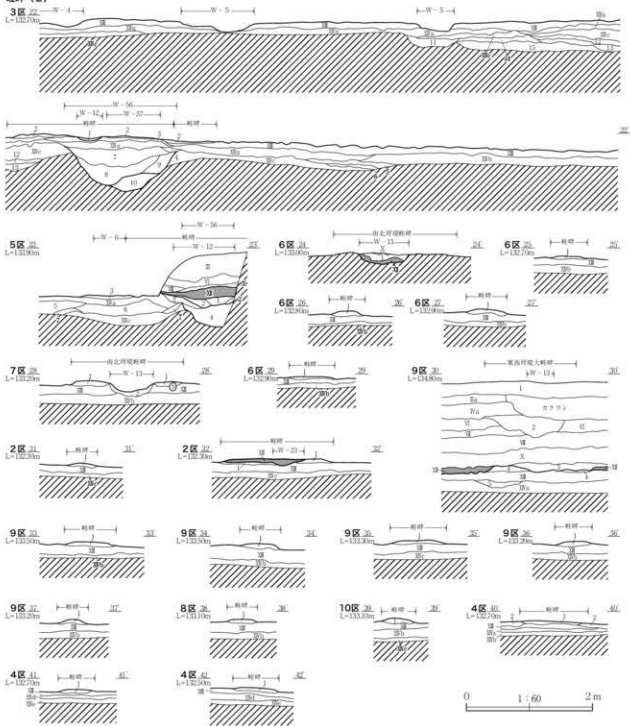
9 赤礫土 (10YR3/1) しまりあり、粘性中程度、小礫少量、粗粒砂中多量。(W-57)

10 黒礫土 (10YR3/2) しまり・粘性中程度、砂粒土少量。(W-57)

11 赤礫土 (10YR3/1) しまりあり、粘性低、小礫少量、粗粒砂少量。(W-57)

Fig.16 第1面 As-B 下水田畦畔断面図 (1)

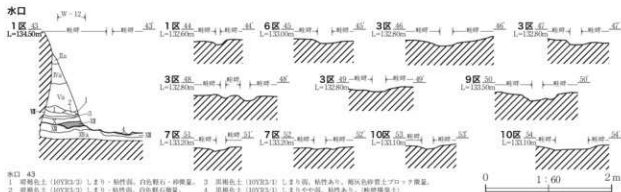
畦畔 (2)



- 畦畔 22**
- 1 粘風土上 (10YR3/4) しまり・粘性弱。腐植砂主層。小礫少量。(W-12)
 - 2 腐風土上 (10YR2/1) しまりやや弱。粘性中。白色軽石少量。(腐植腐葉土)
 - 3 腐風土上 (10YR2/1) しまりあり・粘性弱。砂礫主層。
 - 4 腐風土上 (10YR2/2) しまり・粘性あり。白色軽石少量。粘質土層。
 - 5 腐風土上 (10YR2/3) しまり・粘性あり。白色軽石。黄土上アロクやや少量。
 - 6 腐風土上 (10YR2/3) しまり弱。粘性中やや弱。黄土上アロクやや少量。小礫少量。
 - 7 粘風土上 (10YR2/1) しまり・粘性弱。砂礫主層。(W-56)
 - 8 腐赤腐葉土 (10YR2/2) しまり・粘性弱。小礫主層。腐植砂多量。(W-56)
 - 9 腐赤腐葉土 (10YR2/2) しまりやや弱。粘性弱。白色軽石少量。(W-56)
 - 10 腐赤腐葉土 (10YR2/2) しまりあり。粘性弱。小礫主層。腐植砂多量。(W-27)
 - 11 腐風土上 (10YR2/2) しまり・粘性弱。腐赤腐葉土層上。黄土軽石層上。しまり弱の腐葉土。
 - 12 腐風土上 (10YR2/1) しまり・粘性弱。砂礫主層。
 - 13 腐風土上 (10YR2/1) しまり・粘性弱。砂礫主層。
 - 14 腐赤腐葉土 (10YR2/1) しまり弱。粘性中やや弱。白色軽石少量。
 - 15 腐赤腐葉土 (10YR2/1) しまりあり・粘性弱。小礫主層。腐植砂多量。
 - 16 腐赤腐葉土 (10YR2/1) しまりあり。粘性弱。小礫主層。腐植砂多量。
- 畦畔 23**
- 1 腐風土上 (10YR3/3) しまり弱。粘性中やや弱。AsB多量。(W-12)
 - 2 腐風土上 (10YR3/3) しまり・粘性中やや弱。AsB少量。(W-12)
 - 3 腐風土上 (10YR2/2) しまり弱。粘性中やや弱。白色軽石少量。
 - 4 腐風土上 (10YR2/1) しまり弱。粘性弱。砂礫主層。(W-56)
 - 5 腐風土上 (10YR2/2) しまり・粘性あり。白色軽石やや少量。粘質土層。

- 6 腐風土上 (10YR2/2) しまり弱。粘性中やや弱。小礫少量。粘質土層。
 - 7 腐風土上 (10YR2/2) しまり・粘性中やや弱。小礫少量。砂礫上アロク少量。粘質土層。
- 畦畔 24**
- 1 腐風土上 (10YR2/2) しまり・粘性中やや弱。AsB多量。(W-13)
- 畦畔 25→27→29→31→39**
- 1 腐風土上 (10YR2/1) しまりやや弱。粘性あり。白色軽石少量。(腐植腐葉土)
- 畦畔 26**
- 1 腐風土上 (10YR2/2) しまり弱。粘性中やや弱。白色軽石少量。(腐植腐葉土)
 - 2 腐風土上 (10YR2/2) しまり・粘性中やや弱。粘質土層。
- 畦畔 30**
- 1 中々土(腐葉土)1層
 - 2 腐風土上 (10YR2/2) しまり弱。粘性あり。白色軽石・黄土上アロク多量。粘質土層。
 - 3 腐風土上 (10YR2/1) しまり弱。粘性中やや弱。AsBアロク多量。
 - 4 腐風土上 (10YR2/1) しまり中やや弱。粘性あり。白色軽石少量。(腐植腐葉土)
 - 5 腐風土上 (10YR2/2) しまり・粘性あり。白色軽石・黄土上アロク多量。粘質土層。
- 畦畔 40**
- 1 腐風土上 (10YR2/2) しまり中やや弱。粘性あり。白色軽石少量。(腐植腐葉土)
 - 2 腐風土上 (10YR2/2) しまり中やや弱。粘性あり。AsB軽石少量含む。
- 畦畔 41→42**
- 1 腐風土上 (10YR2/2) しまり・粘性中やや弱。白色軽石少量。(腐植腐葉土)

Fig.17 第1面 As-B 下田畦畔断面図 (2)



歩行列 1 (1区)

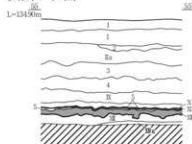


Fig.18 第1面As-B下水口水口・歩行列断面図

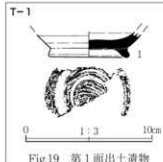


Fig.19 第1面出土遺物

第2節 第2面

第2面ではHr-FA洪水下水田、溝37条、落ち込み1基を確認した。これらの遺構は、①6世紀初頭のHr-FA洪水堆積以後、1108年のAs-B降下以前の遺構（溝16条、落ち込み1基）と、②Hr-FA洪水堆積層（XV層）に被覆された遺構（Hr-FA洪水下水田、溝21条）の2種類に分類できる。時期は、①は古墳時代後期～平安時代、②は古墳時代後期である。①の遺構は、完形の須恵器坏が出土したW-57を除いて出土遺物が少量・小片であるため詳細な時期を確定することは難しい。なお、溝と落ち込みの計測値については「Tab.4 第2面溝・落ち込み計測表」を参照されたい。また、出土した木質遺物は取り上げ後、現場にて観察を行い（Tab.5参照）、剣型木製品と思われる木質遺物（W-25下層1）は持ち帰り、実測・図化を行った。

1 古墳時代後期～平安時代

(1) 溝・落ち込み (Fig.16・17・20～31・35, Tab.4・8, PL.8～11)

W-42・44・45・47・48・53～58・67は覆土に小礫を多量に含む溝で、平面形状が不定形であったり、蛇行していることから自然流路と判断した。覆土の主体が砂であるW-50についても、Hr-FA洪水下水田よりも新しい時期の自然流路の痕跡と考えられる。これら自然流路群の形成時期は遺物が少ないため判断が難しいが、W-57は溝底面から約5cmの高さで完形の須恵器坏（1）が正位で出土していることから奈良時代と推定される。また、W-44・45・48・53～58は調査区壁の土層断面から時期差が確認できる。層位的にW-44・54・57はXVe層とXVf層の間に、W-45はXVb層とXVe層の間に、W-48・53・58はXVf層とXV層の間に、W-56はXVa層とXVb層の間に位置する（Fig.16参照）など、自然流路の形成時期は異なっている。さらに、Hr-FA洪水下水田耕作土下層においても自然流路と考えられる堆積が確認できる（水口B、木7・8断面）。基本層序においても確認されるように、本遺跡は元々自然流路が形成されやすい地形であったと考えられる。次に、上記の自然流路とは異なる溝はW-35・65である。W-35はHr-FAブロックを含んだ粘性的な覆土で、出土遺物も他の溝と比べて多い。平面形状は不整形な複数の土坑状の掘り込みにも見えるため、W-35は自然流路とは異なっている。W-65は直線的で幅や深さも一定の溝で、溝底面には凹凸が見られる。また、覆土も自然流路とは異なるため、W-65も人為的な流路と考えたい。4区東部で検出したO-1は、XV層を掘り込んでいるためHr-FA洪水下水田よりも新しい。遺物の出土はなく、遺構の性格は不明である。

2 古墳時代後期 (Hr-FA 洪水下)

(1) Hr-FA 洪水下水田 (Fig.20～28・31～35, Tab.5・6・8, 巻頭図版2～4, PL.8～13)

被覆層と水田の残存状況 水田は調査区全域(1～8区)で確認された。水田面を被覆する Hr-FA 洪水層(XV層)は厚い箇所では約20cmを測る。後世の自然流路等の溝群に削平されている場所があるものの、全体的に水田面を覆う Hr-FA 洪水層は厚く堆積していることから、水田の残存状況は良好といえる。水田域の地形 一つ一つの水田面は比較的平坦であるが、水田全体を見ると南西から北東(または西から東)に向かって緩やかに傾斜する水田域と、北西から南東に向かって緩やかに傾斜する水田域の2種類がある(Fig.43参照)。南西から北東に傾斜するものは2区のW-41よりも南側の水田域(水田面469～472)と、3・4・8区の水田域、6区のW-49よりも南側の水田域である。4区の水田面473～482については水田区画が不明瞭で、擾乱や別遺構による削平も多いため傾斜の方向は不明瞭だが、周囲の水田域と同じく南西から北東への傾斜と推測される。一方、北西から南東に傾斜するのは1・2区のW-41よりも北側の水田域と、5・7区の水田域、6区のW-49よりも北側の水田域である。また、水田面が検出されなかった3区の北半部、4区の北隅部(水田面467・468よりも北側)は、南西から北東に向かって傾斜しており、水田に伴う水路が集中している。調査区全体の水田面の標高は7区の北端で132.39m、8区の西端で132.51m、2区の東端で131.43m、4区の南端で131.72mを測る。比高差は北から南では0.67m、西から東では1.08mとなっている。畦畔の走向と区画 大部分の水田面は概ね北西-南東方向と南西-北東方向の畦畔によって区画している。8区南半部の水田面432～438の畦畔は走行方向が異なり、概ね南北方向と東西方向である。畦畔には幅が広く高まりの大きな大畦畔がある。これが水田を区画する際の大枠に当たり、この内部を小畦畔で区画する構造となっている。また、水口は通常畦畔の中央で検出されるが、2区の2条の大畦畔や5・7区の大畦畔などに見られるように、大畦畔に直交する畦畔は大畦畔との交点部分を開けて水口としていることが多い。加えて、5・7区大畦畔脇の水田面は直交する畦畔の数が少なく、一つの水田面が細長くなっている箇所も見られるなど、大畦畔に接する水田面は他の水田面とは異なっている。次に、水田区画は主に1～4・6・7区で検出されているような比較的面積の小さな水田面が大部分である。水田面積の大きいものは、1区の南隅部と2区の南半部で検出された水田面258～276、3・4区の水田面465～467・475、5区の水田面278～280・283～285などである。面積の大きな水田面に共通している点は、小面積の水田面を区画する畦畔と比べて、区画する畦畔が幅広で高まりが大きいという点である。1・2区の水田面258～276を区画する畦畔は、傾斜が大きい場所や、W-41(大溝)の内部にあり、他の小区画水田とは異なる機能を有していた可能性がある。また水田区画は、大畦畔によって区画された複数の水田面のまとまり(水田ブロック)があり(Fig.43参照)、それぞれのまとまりの中では畦畔の走行方向や区画の方向に共通性がある。例えば、2区の2条の大畦畔に囲まれた水田ブロックは大畦畔の湾曲方向に合わせて小畦畔も走行方向を変えている。その南側の水田ブロック(水田面261～266等)は水田区画が大きく、畦畔も太くしっかりとできて全く様相が異なるが、それぞれの水田ブロックの中では共通性が見られる。したがって、水田ブロック単位でアゼ造りを行っていたことが分かる。また、4区水田面476～482周囲の畦畔区画は不明瞭であった。この場所は周囲よりも高い場所にあり、尚且つ4区東壁断面ではW-11から北側の水田耕作土(XIb層)の断面は凹凸が顕著であるため、水田ではなく畠として利用された可能性もある。耕作土 AsC軽石を少量含む黒色粘質土を耕作土とする。水田面には細かな凹凸が確認された。取配水の方法 水田域の地形で記述した通り、傾斜方向の異なる2種類の水田域があり、傾斜に応じて配水していたと考えられる。検出されたW-41の詳細は後述するが、大規模な用水路とも考えられる。W-41の大部分は1区と3区、2区と4区の間未調査部分を通っていると考えられ、検出した範囲では、周囲の水田の余水を集めているように見える。隣接する「田口滝ノ前遺跡」では同様の規模を有するW-3・4が確認されており、W-41はこの溝へ続いていると推測される。1区ではW-11の細い支流がW-17・18に直交するように配置されているため、W-17・18からW-11へ水を

一部排水した可能性がある。また、W-11は3区ではW-33を介して水田面465へ配水し、4区ではW-61を介して水田面475へ配水する。足跡人と考えられる足跡を1～8区の主に水田面において検出した。3・5区では全面、6区では任意の範囲内で足跡の形を図化した。また、鳥類の足跡を2区のW-19内部で検出した。検出箇所は湧水または滞水したことによる影響で足跡が残りやすかったと考えられる。足跡の大きさは約11～13cmほどで、前の指(第2～4趾)ははっきり残っているが、後ろの指(第1趾)は明確に残っていない足跡が多い。出土遺物 6区の大畦畔に埋没していた(畦畔断面23参照)完形の土師器杯(1)を図示した。また、杭や自然木などの木質遺物が多数検出されたことが特筆される。1区水口Aでは板状の木11を、打ち込んだ4本の杭(木12～15)で止め、水田面113から77へ流れる水を堰き止めたと考えられる。水口Cも同様の構造で、木5・6は水を堰き止める堰板の役割をし、杭(木17)は堰板が水と一緒に流れないように止める役割をしていたと考えられ、堰状遺構、しがらみ状遺構と思われる。水口Bも同様の機能をもつ遺構だが、水口B付近で検出された木材のうち、Hr-FA洪水直下で露出していたのは堰板の木1と杭状の木2・3・16である。その他の木18～23、杭状の木24～27は水田の黒色粘質土(XVI層)を掘り下げる中で検出した。出土状況から、この場所に堰状遺構を維持する中で使用された木材が埋没したものと考えられる。水口以外の部分に打ち込まれた杭(木7・8・29・30)については、畦畔を補強する護岸用であったと推測される。時期 古墳時代後期

(2) 溝 (Fig.20～31・35, Tab.4・5・8, 巻頭図版2～4, PL.8～12)

W-11, 19, 26, 41, 43, 52の覆土にはHr-FA洪水層(XV層)の上層で砂質の灰黄色洪水層の堆積が確認された。この洪水層は溝の覆土として確認されることが多かったが、5・7区では水田面を覆うXV層の直上に堆積していた。この洪水層はXV層と同じくHr-FAの洪水堆積物と考えられるが、やや黄色が薄く砂質であるため、XV層と明確に判別できた。XV層とこの洪水層との間に他の層は確認されなかったため、XV層堆積後それほど時間を空けずに堆積したものと推測される。W-27で検出した杭(木31～33)は3本直線的に打ち込まれており、堰状遺構の可能性がある。W-25では、溝に対して直交する木材(W-25下層木3)が検出されている。この木材の下層を掘り下げたところ、古い時期のやや規模の大きな溝が断面で確認された。W-25の規模に対してこの木材は長いので、W-25下層の溝aとの関連を考えたい。また、W-25下層から出土した剣型木製品と思われる木質遺物(W-25下層1)を図化した。

Tab.4 第2面溝・落ち込み計測表

溝名	時期	位置	主軸方向	縦深(m)	上幅(m)	下幅(m)	厚さ(m)	断面形状	遺物	備考
W-11	①	X=49213 Y=49304 Y=70053～70123	北軸: N-20°W 南軸: N-52°W	14306	107～202	0.53～1.35	0.53	平口状 溝底		FA洪水下層土同時期。
W-17	①	X=49278 Y=49308 Y=70102～70121	N-22°W	5410	152～278	1.07～2.33	0.07	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-18	①	X=49276 Y=49310 Y=70099～70120	N-29°W	3897	162	1.35	0.07	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-19	①	X=49248 Y=49098 Y=70102～70179	N-40°W	2644	136～276	0.66～1.86	0.31	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-25	①	X=49258 Y=49265 Y=70105～70104	N-25°W	1077	090	0.36～0.66	0.09	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-26	①	X=49231 Y=49252 Y=70105～70106	N=30°W N=45°W	6035	111～317	0.23～0.75	0.23	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-27	①	X=49259 Y=49263 Y=70106～70109	N=84°W	199	245	0.66	0.15	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-28	①	X=49263 Y=49269 Y=70106～70107	N=10°W	574	648	0.41	0.06	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-29	①	X=49254 Y=49266 Y=70102～70109	N=32°E	688	041	0.20	0.10	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-33	①	X=49248 Y=49254 Y=70104～70106	N=4°E	436	104	0.36	0.09	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-35	①	X=49259 Y=49270 Y=70102～70107	N=16°W	1316	070～223	0.31～1.72	0.13	溝底	土師器杯、磨石1。	
W-41	①	X=49234 Y=49245 Y=70104～70105	N=77°W N=85°E	2200	421	2.66～3.73	0.44	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-42	①	X=49243 Y=49250 Y=70104～70106	N=67°E	763	077	0.30	0.16	溝底	縄文土器1。	
W-43	①	X=49219 Y=49231 Y=70113～70115	N=30°W	205	0101	0.33	0.52	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-44	①	X=49200 Y=49236 Y=70106～70108	N=50°W	3898	128	024	0.08	溝底	土師器杯3・磨石1、赤土土器1。 黒土土器1計1、磨石1。	
W-45	①	X=49317 Y=49321 Y=70153～70154	N=21°W	469	181	052	020	溝底	宇土器1。	
W-47	①	X=49252 Y=49277 Y=70116～70119	N=30°W	1673	035～167	0.35～1.23	0.10	溝底		
W-48	①	X=49209 Y=49227 Y=70102～70103	N=46°W	2465	154	010～034	0.17	V字状		
W-49	①	X=49259 Y=49266 Y=70119～70121	N=84°W	3408	024～052	0.40	0.07	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-50	①	X=49249 Y=49252 Y=70123～70124	N=7°E	220	027	0.11	0.09	溝底		
W-51	①	X=49254 Y=49259 Y=70118～70125	N=49°W	901	068	027	0.08	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-52	①	X=49247 Y=49253 Y=70116～70115	N=60°E	790	202	090	017	溝底		FA洪水下層土同時期。
W-53	①	X=49197 Y=49222 Y=70104～70103	N=51°W	3782	204	004～039	0.36	V字状	土師器杯11・磨石1、赤土土器1。 黒土土器1計1、縄文土器1。 石部・磨石各1。	
W-54	①	X=49197 Y=49207 Y=70106～70173	N=51°W	1299	197	014	042	溝底	土師器杯1、磨石1。	
W-55	①	X=49243 Y=49245 Y=70114～70116	N=32°E	181	123	032	018	溝底		

遺構名	時期	位置	主軸方向	確認品	上幅 (m)	下幅 (m)	高さ (m)	断面形状	遺物	備考
W-56	①	X=49199 - 49212 Y=70462 - 70124	N - 20° - E	159	133.52	86.62	1.29	0.09	0.62	V字状
W-57	①	X=49199 - 49212 Y=70462 - 70124	N - 20° - E	159	133.52	86.62	1.29	0.09	0.62	瓦片
W-58	①	X=49207 - 49245 Y=70167 - 70103	N - 52° - W	228	154	109.9	0.29	0.26	0.26	V字状
W-59	①	X=49228 - 49236 Y=70466 - 70474	S - 32° - E	633	1.96	0.19	0.07	0.26	0.26	V字状
W-60	①	X=49228 - 49232 Y=70463 - 70473	S - 46° - W	219	1.42	0.13	0.21	0.26	0.26	V字状
W-61	①	X=49223 - 49231 Y=70468 - 70468	S - 24° - W	1841	0.83	0.30	0.33	0.16	0.16	瓦片
W-62	①	X=49222 - 49229 Y=70462 - 70466	N - 67° - W	1734	1.00	0.35	0.14	0.26	0.26	瓦片
W-63	①	X=49218 - 49221 Y=70457 - 70461	N - 66° - E	231	1.36	0.32	0.18	0.26	0.26	瓦片
W-64	①	X=49237 - 49241 Y=70469 - 70470	N - 29° - E	312	1.16	0.39	0.16	0.26	0.26	瓦片
W-65	①	X=49246 - 49249 Y=70187 - 70192	N - 65° - W	600	0.56	0.26	0.14	0.26	0.26	瓦片
W-66	①	X=49228 - 49229 Y=70464 - 70465	N - 49° - W	433	0.47	0.30	0.03	0.26	0.26	瓦片
W-67	①	X=49213 - 49216 Y=70464 - 70465	N - 47° - E	0.62	0.94	0.66	0.04	0.26	0.26	瓦片

遺構名	時期	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	高さ (m)	平面形状	遺物
O-1	①	X=49219 - 49224 Y=70462 - 70466	5.24	3.36	0.14	長方形	

Tab. 5 第2面出土木柵観察表

No	調査区	位置	種類、形状	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	特徴	特徴	現状状況、備考
B-1	1R B11R	X=49270 Y=70472	木柵	91.0	93	90	釘埋設	加工面は確認できない。漆・板が残り、全体の形状は確認し難い。	FA 遺構下で検出。漆を塗り止めるための材か。
B-2	1R B11R	X=49270 Y=70472	木柵、板	533	48	40	釘埋設	板下部は3箇所の加工が見られる。1箇所は見取から約36cmの長さで、残り1つはより厚い板の1箇所である。板下部は長径から約1-2cm程を削って見取通を穿ち込んでいる。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。
B-3	1R B11R	X=49270 Y=70472	木柵、板	47.0	3.2	3.0	釘埋設	板下部は3箇所の釘の加工が見られる。確認を穿ち込んでいる。1箇所は長さ約30cm×幅5cm。板下部は長さ約9-9.5cm×幅1-1.2cmの加工面が見られる。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。
B-4	1R	X=49266 - 49267 Y=70478 - 70479	板柵	126.6	6.9	2.3	広葉樹	加工面は確認できない。	FA 遺構下。木柵操作土層(30層)に土が埋没し、土が露出した状態である。漆を塗り止めるための材か。
B-5	1R B11C	X=49267 - 49268 Y=70470 - 70471	板柵	99.7	7.0	3.0	釘埋設	一面に長さ2.9cm×幅4cmの釘加工面を1箇所確認。確認なし。	FA 遺構下で検出。漆を塗り止めるための材か。
B-6	1R B11C	X=49268 Y=70469 - 70470	平樹材	47.0	6.1	1.6	釘埋設	平削られているが、明確な加工面は確認できない。確認なし。	FA 遺構下。木柵操作土層(30層)に土が埋没し、土が露出した状態である。漆を塗り止めるための材か。
B-7	1R	X=49261 Y=70472	板柵、板	8.0	4.7	2.9	釘埋設	長さを板より1つよりも削って3箇所の釘面を作り出している。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。漆を塗り止めるための材か。
B-8	1R	X=49261 Y=70472	木柵、板	86.0	4.4	3.9	釘埋設	板下部は長さ約6-10cmの5箇所の釘加工面が見られる。確認を穿ち込んでいる。残部は欠損。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。漆を塗り止めるための材か。
B-9	1R	X=49266 Y=70412	自然木	147.5	19-40	19-40	-	一面に釘があり、もう一面に向かって斜めになる釘。加工面は確認できない。確認なし。	FA 遺構下で検出。
B-10	1R	X=49269 Y=70475	木柵、板	47.7	4.5	4.3	釘埋設	両端部は欠損していると考えられ、先端を穿ち込めるような加工は確認できない。1つは釘加工で残部を残った長さ約3cm×幅1cmの長径方向の加工が1箇所確認された。確認なし。対応できない。	FA 遺構下で検出。漆を塗り止めるための材か。
B-11	1R B11A	X=49271 - 49272 Y=70471 - 70472	板柵	163.7	9.3	1.5-2.7	釘埋設	板柵を穿ち込めるが、明確な加工面は確認できない。確認なし。	FA 遺構下で検出。漆を塗り止めるための材か。
B-12	1R B11A	X=49272 Y=70471	平樹材、板	39.3	4.9	4.1	釘埋設	明確な加工面は確認できない。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。
B-13	1R B11A	X=49271 - 49272 Y=70471	木柵、板	38.0	3.7	2.8	釘埋設	板下部は穿ち込めるための釘に削った加工面が1箇所確認された。板下部に釘面が見られるが、打ち込み時に生じたものか。全体に釘面がある。部分にのみ釘面がある。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。
B-14	1R B11A	X=49271 Y=70471	平樹材、板	16.9	7.2	3.3	釘埋設	両端は欠損。縦に平削っている。削った面の凹凸が見られる。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。
B-15	1R B11A	X=49271 Y=70471	平樹材、板	49.7	4.5	2.2	-	板下部の凹凸は確認できない。板下部に凹凸が見られるが、打ち込み時に生じたものか。全体に釘面がある。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。
B-16	1R B11R	X=49271 Y=70472	木柵、板	35.0	3.9	4.0	広葉樹	板下部は欠損しているが、残部を穿ち込める約18cmの範囲で凹凸が確認できる。板下部に釘面が見られるが、打ち込み時に生じたものか。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。
B-17	1R B11C	X=49267 Y=70469	木柵、板	32.5	4.5	4.1	広葉樹	板下部は長さ約6.2cmの釘加工面が1箇所あり、穿ち込んでいる。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。
B-18	1R B11B	X=49270 - 49275 Y=70472 - 70473	木柵	147.9	5.3	4.7	広葉樹	加工面は確認できない。全体に釘面がある。	木柵操作土層(30層)中から検出。漆を塗り止めるための材か。
B-19	1R B11B	X=49270 - 49272 Y=70473 - 70474	木柵	113.7	3.3-5.0	1.5-2.5	釘埋設	加工面は確認できない。確認なし。	木柵操作土層(30層)中から検出。漆を塗り止めるための材か。
B-20	1R B11R	X=49270 - 49271 Y=70473	板柵	36.6	-	-	-	加工面は確認できない。	木柵操作土層(30層)中から検出。漆を塗り止めるための材か。
B-21	1R B11B	X=49270 - 49271 Y=70472 - 70473	木柵	126.3	5.7	2.7	広葉樹	加工面は確認できない。確認なし。	木柵操作土層(30層)中から検出。漆を塗り止めるための材か。
B-22	1R B11B	X=49271 Y=70471	木柵	34.5	2.0	1.0	釘埋設	加工面は確認できない。二箇所に分かれた板。確認が得られる。	木柵操作土層(30層)中から検出。漆を塗り止めるための材か。
B-23	1R B11B	X=49269 - 49270 Y=70471 - 70472	平樹材	188.8	7.9	4.8	釘埋設	縦に平削られている。明確な加工面は確認できない。確認なし。	木柵操作土層(30層)中から検出。
B-24	1R B11B	X=49270 - 49271 Y=70471 - 70472	木柵、板	35.4	3.7	3.4	釘埋設	板下部は長さ最大約7cmの釘面を3箇所穿ち込んでいる。1箇所は長さ約2cm×加工面が削り(長さ約5cm)である。確認なし。	木柵操作土層(30層)中から検出。
B-25	1R B11R	X=49270 Y=70472	木柵、板	54.8	4.8	4.3	釘埋設	板下部は長さ最大約12cmの釘加工面が複数あり、確認を穿ち込んでいる。見取通の加工面は確認できない。	木柵操作土層(30層)中から検出。
B-26	1R B11B	X=49270 Y=70473	木柵、板	33.0	3.7	3.3	釘埋設	板下部は釘加工面が3箇所あり、確認を穿ち込んでいる。1箇所は長さ約2cm×加工面が削り(長さ約5cm)である。確認なし。	木柵操作土層(30層)中から検出。
B-27	1R B11B	X=49270 Y=70473	木柵、板	31.8	2.8	2.6	釘埋設	板下部は平削られているが、明確な加工面は確認できない。釘加工面が板下部に欠損している。全体に釘面がある。	木柵操作土層(30層)中から検出。
B-28	2R	X=49246 Y=70461	木柵、板	68.0	5.7	5.0	釘埋設	板下部は釘加工面が確認できるが、欠損しており加工面は不明である。確認なし。	FA 遺構下。板下部が露出した状態である。

No	調査区	位置	種類	面積 (m ²)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特徴	検討状況	備考
水29	3区	X=49262 Y=70369	木材、瓦	295	5.4	4.4	前面部は張り加工面(長さ約12.5m)が5割あり、後面を突っ張っている。瓦と瓦は固定、固定無し。	本調査物件(30期)より下層に該当。	
水30	3区	X=49261 Y=70369	鋼材、瓦	814	7.0	2.9	全体に4割の張り加工面あり、加工面は平野面ではなく、湾曲している。張り加工ではなく、張り鉄で面を支えている。溝底部。	F.A.水表示。瓦と瓦が固定した状態に該当。	
水31	3区	X=49261 Y=70369	木材、瓦	906	6.2	5.9	前面部は張り加工面(長さ約4.4m)が9割あり、後面を突っ張っている。溝底部。	F.A.水表示。瓦と瓦が固定した状態に該当。	
水32	3区	X=49261 Y=70369	木材、瓦	1065	6.2	5.8	前面部は張り加工面(長さ3.8~18cm)が6割あり、後面を突っ張っている。溝底部。	F.A.水表示。瓦と瓦が固定した状態に該当。	
水33	3区	X=49262 Y=70369	鋼材、瓦	473	5.3	4.9	前面部は張り加工面(長さ約7.0m)が9割あり、後面を突っ張っている。溝底部。	F.A.水表示。瓦と瓦が固定した状態に該当。	
W-11	1区	X=49261 Y=70369	鋼材	3.9	4.0	4.3	前面部が中張りである。反転が、全断面に準拠しており明確な張り加工面は設定できない。溝底は3角形より湾曲面が確認できる。	溝底部は一面固定した状態で確認。調査物件(1)より上層はW-11、W-12、W-13	
W-25	3区	X=49263 Y=70362	木材、瓦	421	8.3	4.8	前面部は張り加工面(長さ約7.7m)が全幅あり、後面は平野面に突っ張っている。	本調査物件(30期)より下層に該当。	
W-25	3区	X=49260 ~ 49263 Y=70361 ~ 70364	平野面	369	10 ~ 169	7	全体が張り加工面を有する。後面から130cmの長さで張り鉄が確認できる。2層の平野面を有している。本区画のみの調査あり。溝底無し。	F.A.水表示と同時期のW-25内1に部分と重複。溝底部はW-11、W-12、W-13より上層に該当。	

Tab. 6 第2面 Hr-FA 洪水下水田計測表 (631面中、残存状況の良い水田面の中から代表的なものを掲載。)

調査区	田面	グリッド	面積 (m ²)	長軸 (m)	短軸 (m)	標高 (m)					備考
						N	E	中央	W	S	
1区	56	X=49276 Y=70374	3.61	3.86	1.03	131.77	131.74	131.75	131.79	131.73	
1区	57	X=49275 Y=70369	3.28	2.83	1.13	131.71	131.66	131.69	131.71	131.69	
1区	58	X=49273 Y=70370	2.16	2.25	0.90	131.68	131.67	131.67	131.68	131.68	
1区	59	X=49270 Y=70365	2.84	3.13	0.91	131.73	131.64	131.66	131.69	131.64	北西に張り。
1区	62	X=49260 Y=70367	4.08	2.97	1.71	131.66	131.66	131.66	131.67	131.66	
2区	63	X=49258 Y=70365	3.54	2.71	1.62	131.65	131.63	131.63	131.63	131.63	
2区	64	X=49256 Y=70364	4.05	2.56	1.66	131.59	131.58	131.57	131.58	131.57	南側に張り。
2区	65	X=49254 Y=70362	4.12	2.67	1.56	131.53	131.53	131.53	131.53	131.53	北西・南側に張り。
2区	66	X=49251 Y=70360	4.43	2.64	1.74	131.51	131.52	131.50	131.50	131.51	北西・南側に張り。
2区	67	X=49250 Y=70347	3.74	2.44	1.51	131.45	131.48	131.48	131.45	131.50	北西・南側に張り。
1区	107	X=49265 Y=70361	5.00	3.16	1.94	131.80	131.80	131.80	131.80	131.79	南側に張り。
1区	124	X=49284 Y=70363	5.65	3.06	1.87	131.79	131.77	131.78	131.79	131.79	北西・南側に張り。
1区	139	X=49263 Y=70365	3.71	2.82	1.29	131.80	131.81	131.82	131.81	131.80	北西・南側に張り。
1区	138	X=49281 Y=70367	6.26	2.93	2.10	131.79	131.81	131.82	131.81	131.80	北西・南側に張り。
1区	178	X=49280 Y=70362	4.39	3.03	1.40	131.84	131.82	131.84	131.82	131.84	北西・南側に張り。
1区	191	X=49279 Y=70360	4.84	2.73	1.46	131.84	131.84	132.00	131.81	131.84	北西・南側に張り。
1区	209	X=49278 Y=70362	4.63	2.73	1.74	131.81	131.82	131.82	131.81	131.82	南側に張り。
1区	226	X=49277 Y=70360	4.97	3.01	1.69	131.81	131.82	131.83	131.81	131.82	南側に張り。
1区	242	X=49277 Y=70366	4.21	2.92	1.45	131.81	131.81	131.84	131.82	131.83	北西に張り。
1区	254	X=49276 Y=70369	4.23	2.87	1.52	131.82	131.83	131.81	131.81	131.81	
1区	258	X=49264 Y=70369	318.71	5.91	3.45	131.68	131.67	131.69	131.63	131.62	北側に張り。
1区	259	X=49261 Y=70364	0.9595	0.64	3.22	131.59	131.56	131.56	131.56	131.56	北側に張り。
2区	262	X=49246 Y=70368	39.761	6.95	3.62	131.32	131.39	131.29	131.08	131.03	北西・南側に張り。
2区	263	X=49284 Y=70364	39.151	4.79	4.36	131.33	131.38	131.29	131.92	131.91	南側に張り。
2区	264	X=49262 Y=70360	18.771	5.10	3.70	131.36	131.30	131.11	130.93	130.97	北西・南側に張り。
5区	283	X=49303 Y=70365	10.540	4.66	4.53	132.23	132.27	132.26	132.27	132.24	北西・南側に張り。
5区	284	X=49299 Y=70362	10.880	4.47	4.17	132.22	132.16	132.16	132.21	132.18	北西・南側に張り。
5区	297	X=49298 Y=70363	8.71	2.50	1.88	132.22	132.22	132.19	132.22	132.21	北西・南側に張り。
5区	303	X=49297 Y=70362	6.96	2.40	2.19	132.24	132.23	132.22	132.24	132.23	北西・南側に張り。
7区	341	X=49303 Y=70362	4.17	2.29	1.79	132.32	132.32	132.30	132.32	132.33	北西・南側に張り。
7区	347	X=49302 Y=70365	4.16	2.36	1.58	132.33	132.33	132.33	132.33	132.33	北西・南側に張り。
7区	360	X=49297 Y=70360	5.42	2.64	2.05	132.36	132.33	132.36	132.35	132.36	北西・南側に張り。
7区	367	X=49298 Y=70367	6.47	2.71	2.46	132.34	132.35	132.35	132.35	132.35	北西に張り。
7区	374	X=49298 Y=70373	5.29	2.87	1.82	132.33	132.32	132.35	132.34	132.34	南側に張り。
6区	386	X=49277 Y=70367	52.40	9.113	5.68	132.16	132.12	132.13	132.20	132.08	北・北西に張り。
6区	386	X=49270 Y=70362	12.914	7.91	5.01	132.19	132.17	132.14	132.16	132.15	
6区	397	X=49273 Y=70365	7.43	3.91	1.90	132.08	132.03	132.03	132.08	132.02	南西・南側に張り。
6区	400	X=49272 Y=70366	5.72	3.79	1.47	132.06	132.02	132.02	132.07	131.98	北に張り。
6区	402	X=49270 Y=70367	8.09	3.76	2.50	132.05	131.97	132.04	132.02	132.03	
6区	404	X=49267 Y=70369	4.81	3.71	2.180	132.04	131.99	132.00	132.03	132.00	南側に張り。
8区	421	X=49273 Y=70364	5.55	3.54	1.58	132.24	132.24	132.23	132.22	132.26	北西・南側に張り。
8区	424	X=49271 Y=70365	3.39	3.58	1.47	132.23	132.25	132.25	132.26	132.25	北西・南側に張り。
8区	427	X=49270 Y=70367	3.63	3.03	1.17	132.25	132.26	132.25	132.26	132.27	
8区	430	X=49268 Y=70367	4.69	2.83	1.63	132.27	132.29	132.32	132.24	132.33	
8区	433	X=49281 Y=70362	61.716	3.73	3.31	132.56	132.51	132.47	132.48	132.30	
8区	436	X=49257 Y=70362	61.236	3.73	3.96	132.52	132.62	132.63	132.65	132.62	
6区	449	X=49284 Y=70362	7.79	2.98	2.53	131.95	131.95	131.97	131.98	132.00	北・東に張り。
6区	450	X=49286 Y=70369	6.72	3.25	2.44	131.93	131.92	131.94	131.96	131.97	北に張り。
6区	451	X=49281 Y=70368	4.72	2.44	1.67	131.93	131.92	131.95	131.96	131.95	
6区	452	X=49280 Y=70365	4.42	3.05	1.81	131.93	131.89	131.92	131.93	131.93	南側に張り。
3区	460	X=49242 Y=70366	38.54	8.20	3.53	131.77	131.67	131.75	131.75	131.71	北西・南側に張り。
4区	467	X=49233 Y=70371	60.653	65.898	3.18	131.64	131.63	131.63	131.64	131.64	南側に張り。
4区	501	X=49222 Y=70364	5.95	2.80	2.17	131.69	131.70	131.74	131.75	131.74	北西・南側に張り。
4区	515	X=49222 Y=70360	5.60	2.98	2.30	131.73	131.74	131.71	131.74	131.73	北西・南側に張り。
4区	533	X=49220 Y=70360	4.69	2.72	1.39	131.74	131.73	131.73	131.73	131.73	北西に張り。
4区	548	X=49219 Y=70379	3.26	3.47	1.53	131.78	131.77	131.78	131.78	131.76	北西・南側に張り。
4区	568	X=49217 Y=70361	5.22	2.95	1.76	131.79	131.80	131.79	131.83	131.83	南側に張り。

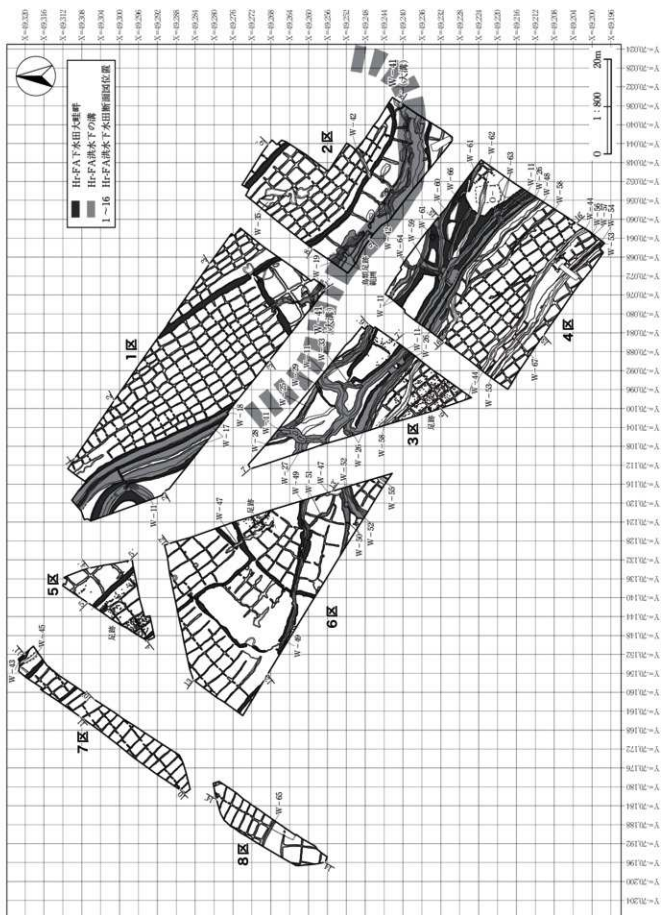


Fig.20 第2面全体図

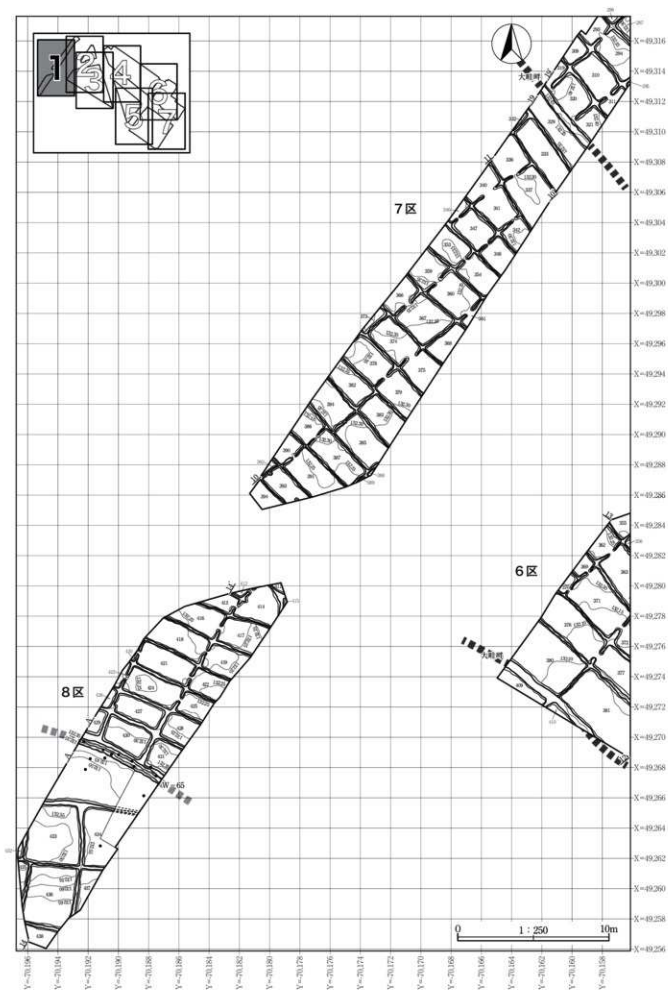


Fig.21 第2面全体图 (1)

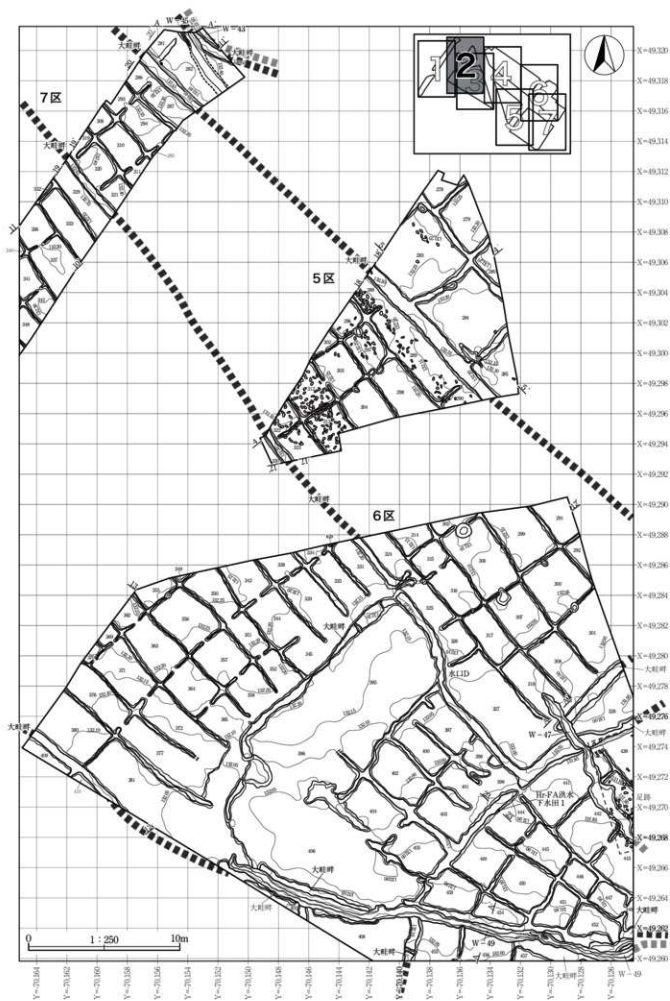


Fig.22 第2面全体图(2)

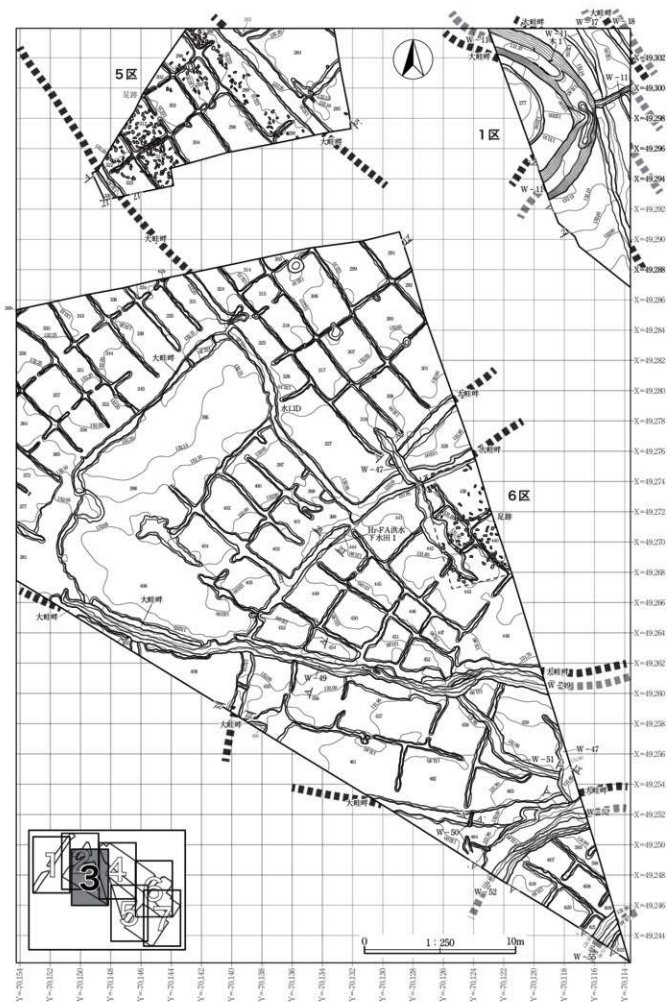


Fig.23 第2面全体图 (3)

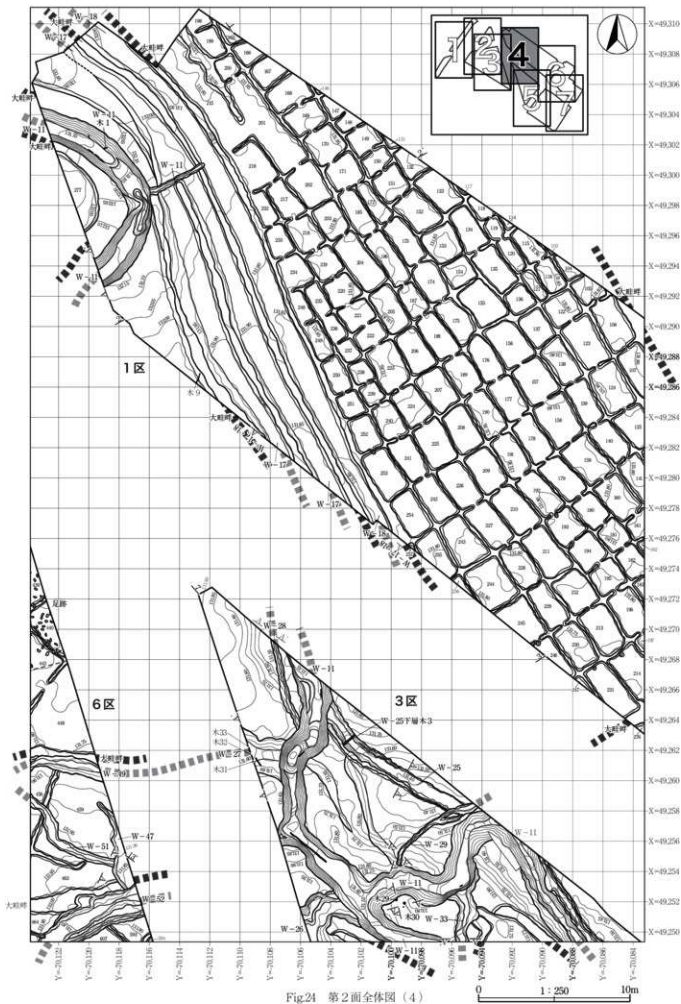


Fig.24 第2面全体图(4)

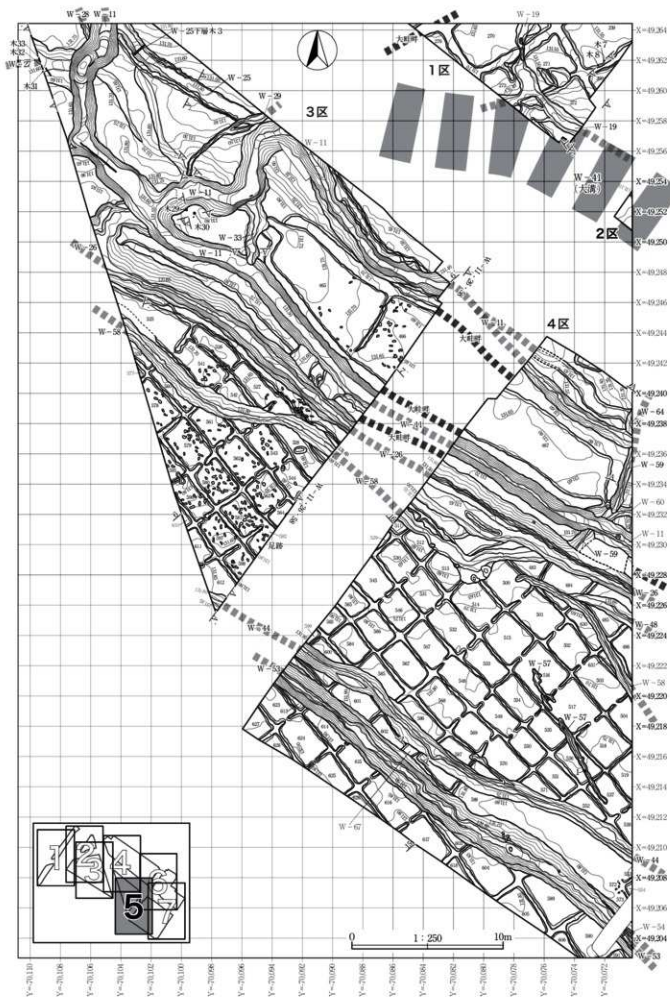


Fig.25 第2面全体图(5)

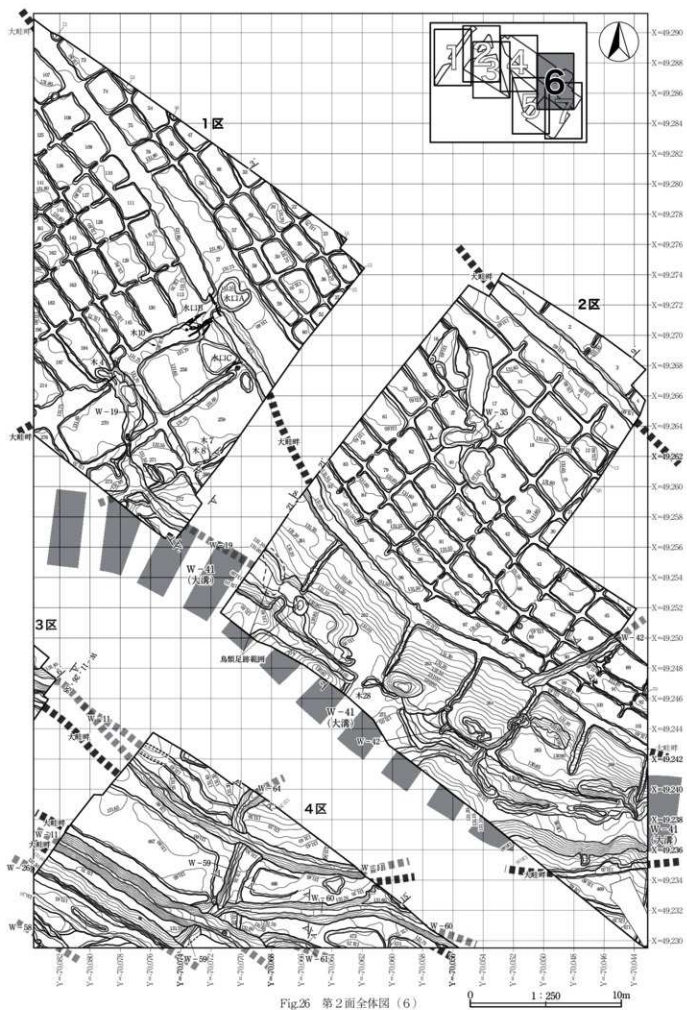


Fig.26 第2面全体図(6)

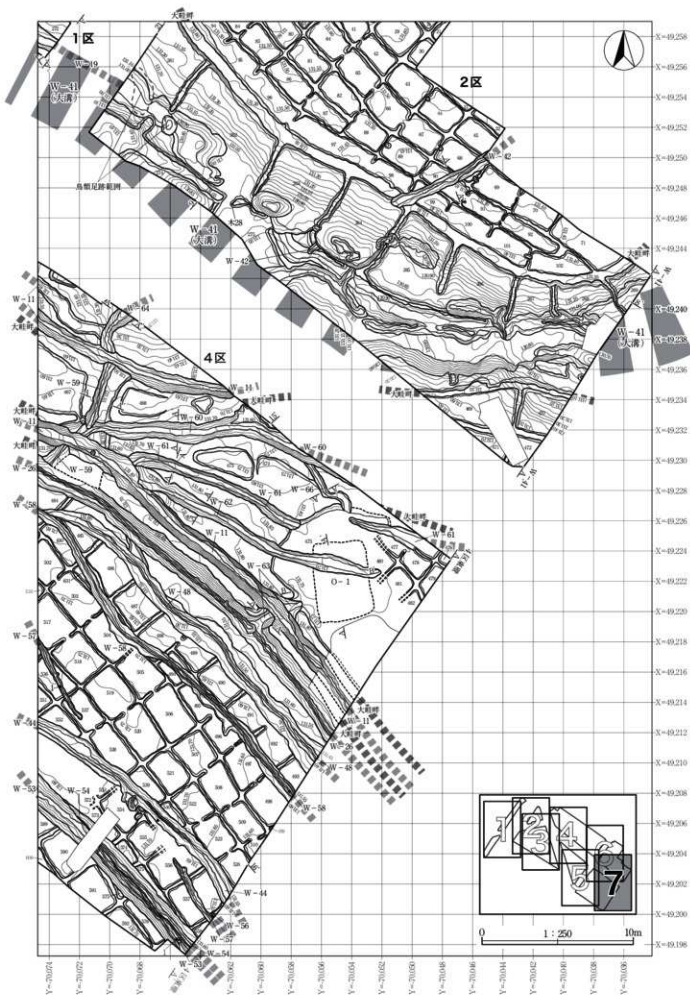
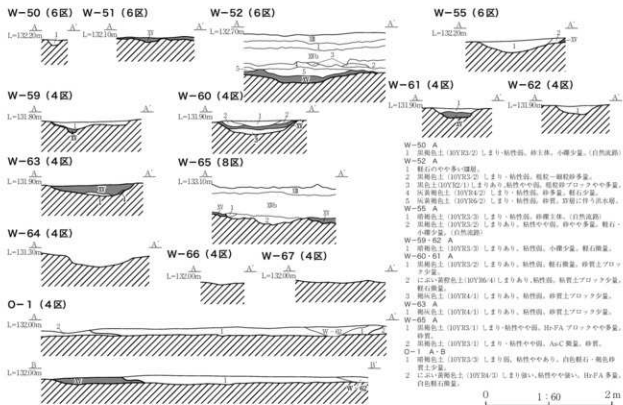


Fig.27 第2面全体図 (7)



- W-50 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱、粘土塊、小礫少量。(自然成層)
- W-52 A
1 粘土中や中多・硬結
2 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱、粘粒・粘板粘多量
3 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘粒中・粘板粘アロツクや中多量
4 灰黄栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱、粘多量、粘土少量
5 灰黄栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱、粘粒、粘板に付く灰土層
- W-55 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱、粘土塊、小礫少量。(自然成層)
- W-59 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- W-60 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- W-61 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- W-62 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- W-63 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- W-64 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- W-65 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- W-66 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- W-67 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)
- O-1 A
1 栗色土 (10YR5/2) しまり・粘性中弱、粘土塊、粘土少量、粘土少量、(自然成層)

Hr-FA洪水下水田 (1)

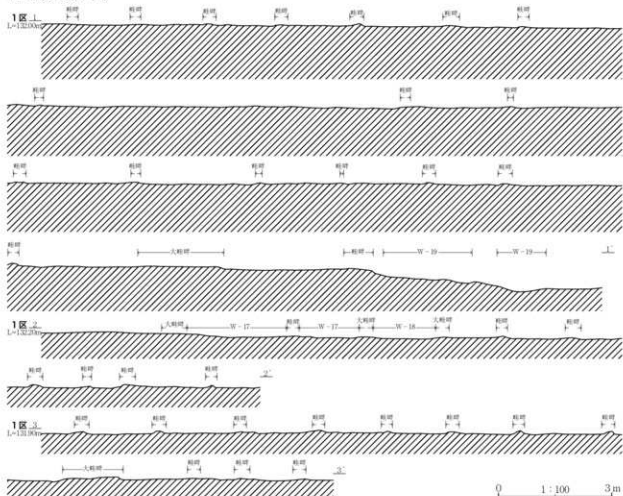


Fig.31 第2面溝断面図 (4)、落ち込み断面図、Hr-FA洪水下水田断面図 (1)

Hr-FA 洪水下水田 (2)

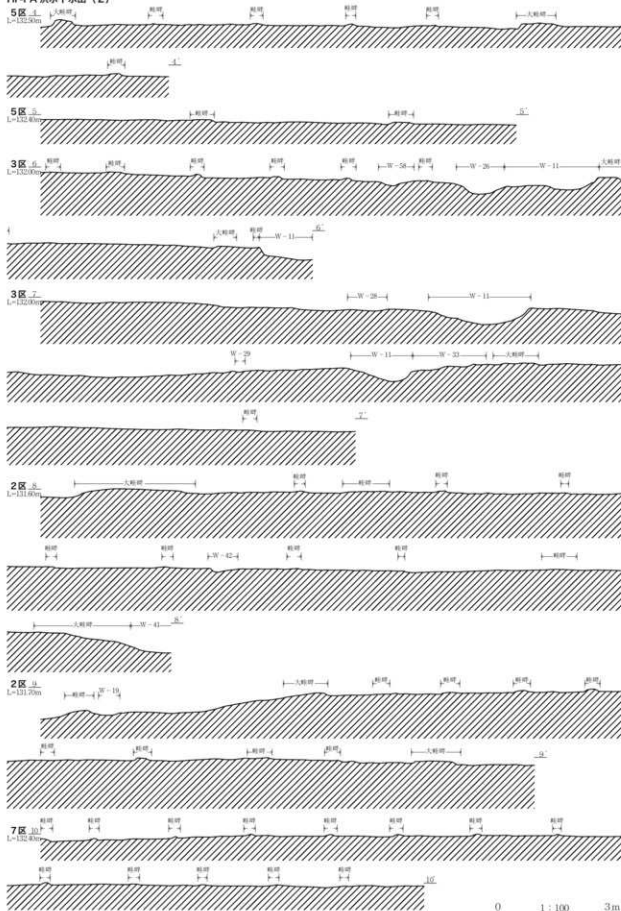


Fig.32 第2面 Hr-FA 洪水下水田断面图 (2)

0 1:100 3m

Hr-FA 洪水下水田 (3)

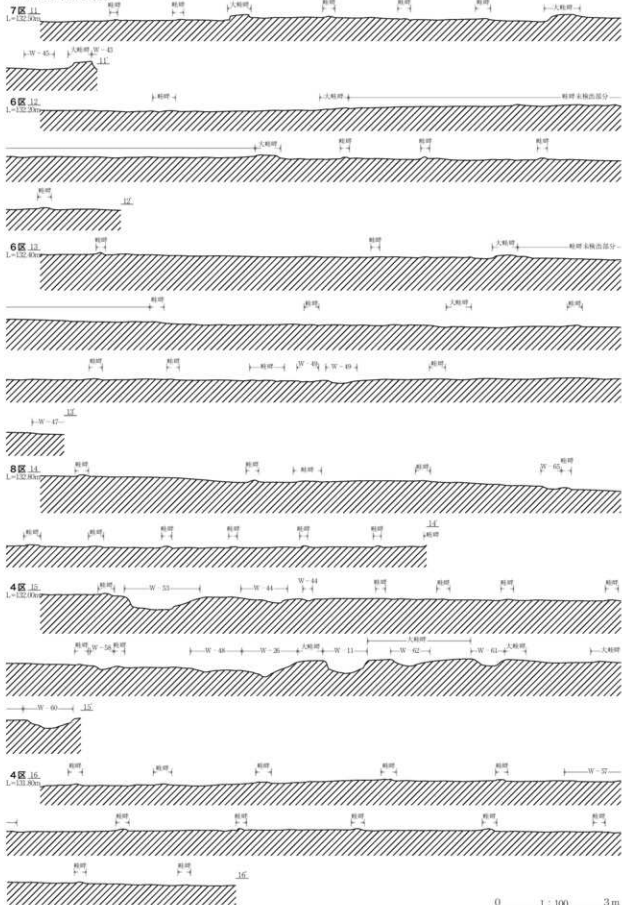
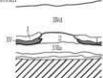


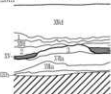
Fig.33 第2面 Hr-FA 洪水下水田断面図 (3)

畦畔

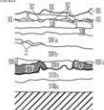
5区 17
L=133.30m



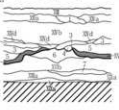
5区 18
L=133.30m



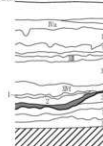
7区 19
L=133.60m



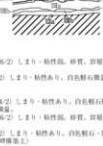
7区 20
L=133.60m



2区 21
L=133.30m



6区 22
L=132.30m



6区 23
L=132.30m



畦畔 17

1 灰黄棕色土 (10Y3/6-2) しまり・粘性弱、砂質、初期に付う
洪水層。
2 茶褐色土 (10Y3/2-1) しまり・粘性あり、白色軽石少量、(塊
砂質粘土)

畦畔 18

1 灰黄棕色土 (10Y3/4-2) しまり・粘性あり、白色軽石少量、
砂質土(フロック層)。
2 灰黄棕色土 (10Y3/6-2) しまり・粘性弱、砂質、初期に付う
洪水層。
3 茶褐色土 (10Y3/2-1) しまり・粘性あり、白色軽石・10-F-A
フロック少量、(塊砂質粘土)

畦畔 19

1 茶色土 (10Y3/2-1) しまり弱、粘性あり。
2 茶褐色土 (10Y3/3-1) しまり・粘性やや弱、砂質土やや多量。

畦畔 20

1 茶色土 (10Y3/2-1) しまり・粘性あり、粗粒砂質土やや多量。
2 灰黄棕色土 (10Y3/4-2) しまり・粘性弱、砂質土、洪水層少。

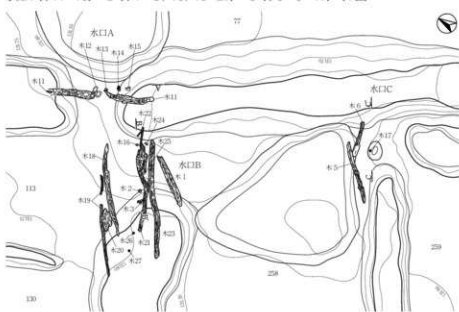
畦畔 21

1 茶褐色土 (10Y3/2-1) しまりやや弱、粘性あり、砂土やや多量、
洪水層少。
2 茶色土 (10Y3/2-1) しまりやや弱、粘性あり、10-F-A フロッ
ク少量、(塊砂質粘土)。
3 灰黄棕色土 (10Y3/6-2) しまり・粘性弱、砂質、初期に付う
洪水層。
4 茶色土 (10Y3/2-1) しまりやや弱、粘性あり、灰色シロップ
フロック少量、(塊砂質粘土)。
5 茶褐色土 (10Y3/2-1) しまり・粘性弱、砂質多量。
6 茶色土 (10Y3/2-1) しまりやや弱、粘性あり、灰色シロップ
フロック少量、(塊砂質粘土)。
7 茶色土 (10Y3/2-1) しまり・粘性弱、砂質多量。

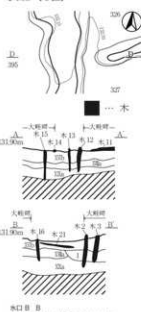
畦畔 22

1 茶褐色土 (10Y3/2-1) しまりやや弱、粘性あり、AsC 砂少量。
2 茶褐色土 (10Y3/3-1) しまり・粘性あり、粗粒砂多量、AsC 少量。

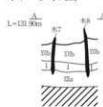
水口A (木11~15)・B (木1~3、16、18~27)・C (木5・6・17) (1区)



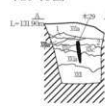
水口D (6区)



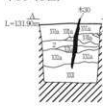
木7・8 (1区)



木29 (3区)



木30 (3区)



木7・8 A

1 茶褐色土 (10Y3/2-1) しまり・粘性弱、砂質土層、(自然成層)
木29・30 A
1 茶色土 (NS-1) しまり・粘性中弱。
2 茶褐色土 (10Y3/2-2) しまりやや弱、粘性あり、砂質土フロック多量、白色軽石土層。

Fig.34 第2面 Hr-FA 洪水下水田畦畔断面図、水口平面・断面図、木断面図

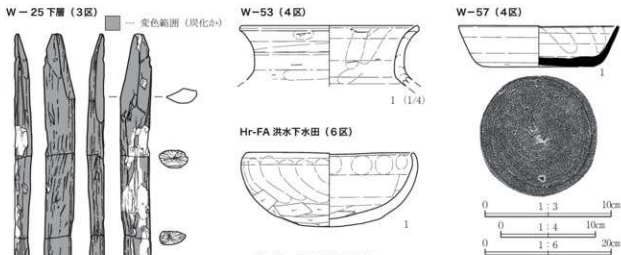


Fig.35 第2面出土遺物

第3節 第3面

1 弥生時代後期～古墳時代前期

(1) 竪穴建物

H-1号竪穴建物 (Fig.36～40, Tab. 8, 巻頭図版4, PL.13・14)

位置 第3面 (X=49.260～49.264, Y=-70.192～-70.196) 主軸方向 N-9°-W 規模 平面形状方形。東西軸(4.63)m、南北軸4.27m、壁高0.30m。床面横(15.80)m 床面 張床。竪穴南半を中心に硬化する。炉 竪穴中央北寄りに検出。掘り込みは浅い。炉石は磨面・被熱あり。貯蔵穴 なし。柱穴 4基検出。掘り方 壁沿いを環状に掘り込み、掘削痕が見られる。

出土遺物 土師器高坏(1)は壁際床から約6cmの高さで出土。高坏(2)・(3)はP2覆土上層からの出土。坏部は欠損しており、2個体まとめて廃棄されたような状況であった。小型甕(4)はP1覆土中から、甕(5)は床から約3cmの高さで、甕(6)はP2覆土上層から出土した。台石(7)は南壁際床面直上から出土した。(7)の近くの炭化材の下からは磨石が床面直上から出土した。また、竪穴中央南寄りに大型の台石が床面直上から出土した。この大型の台石の西側からは二つに割れた磨石1が床面から約2～3cmの高さで出土した。時期 古墳時代前期。

(2) 溝・土坑 (Fig.36・38・40, Tab. 7・8, PL.13・14)

6条の溝と3基の土坑を検出した。計測値については「Tab. 7 第3面溝・土坑計測表」を参照されたい。下層の確認のためトレンチを入れた4区ではD-5が検出されたが、遺物の出土もなく、覆土の状況からも人為的な掘り込みの可能性は低い。また、広瀬川砂礫層と考えられる礫が検出されており、4区は周囲と比較して微高地地形であったと推測される。溝の時期は①弥生時代後期、②弥生時代後期～古墳時代前期、③古墳時代前期に分類される。W-69出土の弥生土器壺(1)・(2)は接合しなかったが、同一個体の可能性が高い。(2)は頭部に麻状文を施した樽式土器で、時期は弥生時代後期と考えたい。W-68も覆土の状況や層位から弥生時代後期頃と推測される。W-70の時期は出土した土師器甕(1)から古墳時代前期で、W-71・72は重複関係からW-70よりも古く、W-71は出土遺物から同じく古墳時代前期と考えたい。W-72・73は遺物が出土しなかったが、覆土の状況から弥生時代後期～古墳時代前期と推測される。

Tab.7 第3面溝・土坑計測表

遺物名	時期	位置	主軸方向	縦径長 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	断面形状	遺物	備考
W-68	①	X=49.275-49.279 Y=70.179-70.186	N-71°-W	5.49	1.49-2.11	0.62	0.47	瓶状		
W-69	①	X=49.272-49.277 Y=70.181-70.189	N-40°-W	4.26	2.00	0.64	0.23	瓶状	壺(1)土器1。	
W-70	②	X=49.269-49.270 Y=70.185-70.192	N-72°-W	6.01	1.05-1.86	0.14-0.92	0.40	瓶状	土師器壺(1) 弥生土器2。	
W-71	②	X=49.269-49.271 Y=70.185-70.191	N-72°-W	4.57	1.01	0.44	0.26	瓶状	土師器壺1。	
W-72	②	X=49.263-49.269 Y=70.187-70.193	N-50°-W	6.17	0.86	0.34	0.30	瓶状		
W-73	②	X=49.263-49.266 Y=70.186-70.191	N-29°-W	6.36	0.60	0.20	0.18	瓶状		

遺物名	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形状	遺物	遺物名	位置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形状	遺物
D-5	X=49.293-49.294 Y=70.062	0.66	0.59	0.23	円形		D-7	X=49.271-49.272, Y=70.188	0.23	0.63	0.11	円形	
D-6	X=49.271-49.272 Y=70.186-70.187	0.97	0.74	0.17	楕円形								

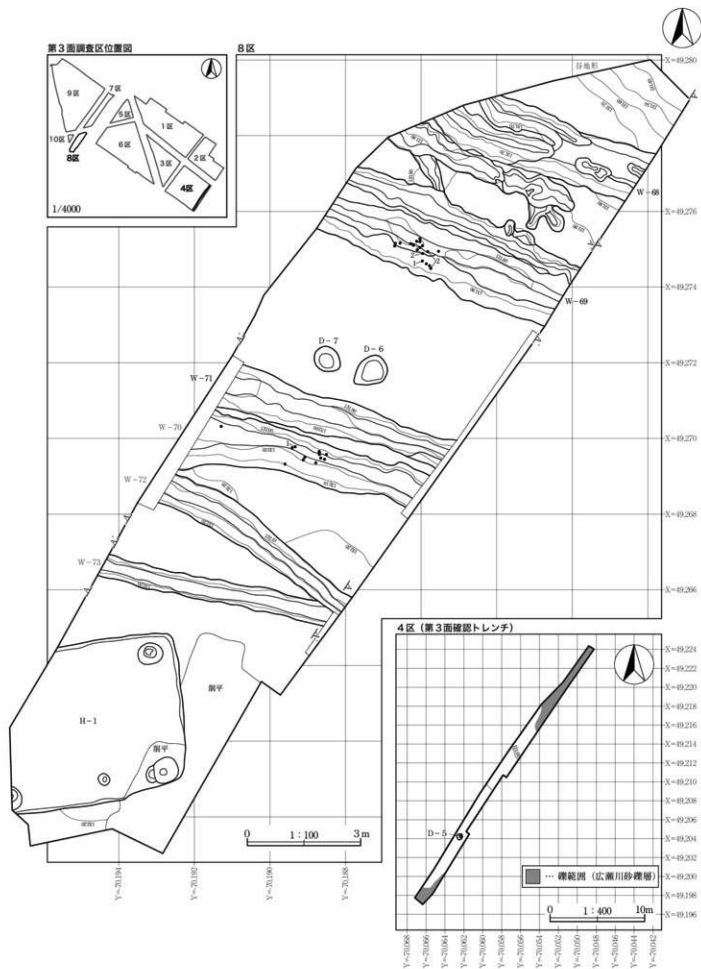
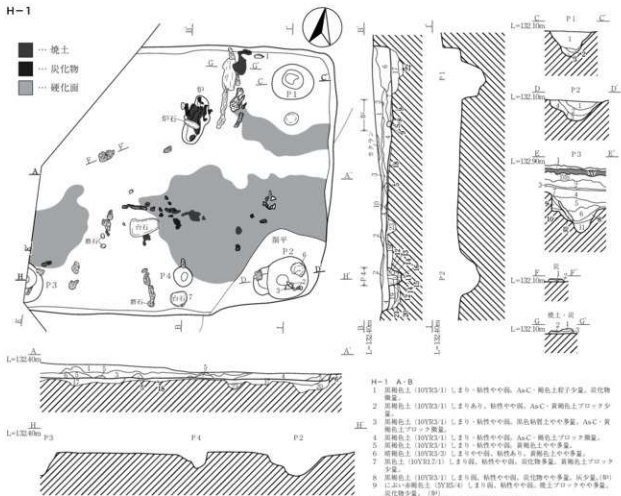
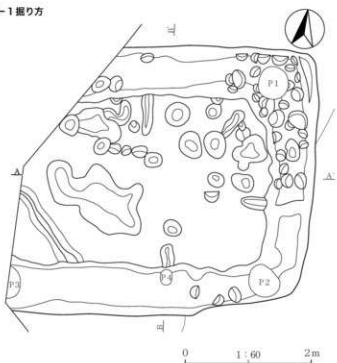


Fig.36 第3面全体図

H-1



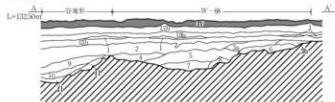
H-1 掘り方



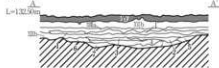
- H-1 A-B
- 1 黒褐色土 (HV33-1) しまり・粘性や中固。AsC・褐色土層上り少量。炭化物層。
 - 2 黒褐色土 (HV33-1) しまり。粘性や中固。AsC・黄褐色土層上りアロックス層。
 - 3 黒褐色土 (HV33-1) しまり・粘性や中固。黒色粘質土や中多量。AsC・黄褐色土層上りアロックス層。
 - 4 黒褐色土 (HV33-1) しまり・粘性や中固。AsC・褐色土層上りアロックス層。
 - 5 黒褐色土 (HV33-1) しまり・粘性や中固。黒褐色土層上りアロックス層。
 - 6 褐色土 (HV33-2) しまりや中固。粘性あり。黄褐色土層上りや中多量。
 - 7 黄土土 (HV33-2) しまり。粘性や中固。炭化物多量。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 8 黒褐色土 (HV33-1) しまり。粘性や中固。炭化物や中多量。灰少量。(P)にのみ黒褐色土 (HV35-4) しまり。粘性や中固。黄土層上りアロックス層。炭化物少量。(P)
 - 9 褐色土 (HV34-4) しまり・粘性や中固。褐色土層上りアロックス層。
 - 10 黒褐色土 (HV34-2) しまりや中固。粘質面。黄褐色土層上りアロックス層。(P)
 - 11 黒褐色土 (HV34-2) しまりや中固。粘質面。黄褐色土層上りアロックス層。(P)
 - 12 灰黄褐色土 (HV34-2) しまりや中固。粘質面。黄褐色土層上りアロックス層。(P)
 - 13 灰黄褐色土 (HV34-2) しまりや中固。粘質面。黄褐色土層上りアロックス層。(P)
 - 14 黒褐色土 (HV33-1) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。(P)
 - 15 黒褐色土 (HV33-6) しまりや中固。粘性あり。黄褐色土層上りアロックス層。(P)
 - 16 灰黄褐色土 (HV34-2) しまり・粘性や中固。褐色土層上りアロックス層。(P)
 - 17 黒褐色土 (HV33-2) しまりや中固。粘性や中固。褐色土層上りアロックス層。
 - 18 褐色土 (HV34-4) しまりあり。粘性面。黒褐色土層上りアロックス層。
 - 19 黒褐色土 (HV33-1) しまりあり。粘性面。黄褐色土層上りアロックス層。粘石層。
 - 20 黒褐色土 (HV33-1) しまり・粘性や中固。粘石・黄褐色土層上りアロックス層。
 - 21 褐色土 (HV34-4) しまり。粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 22 褐色土 (HV34-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 23 褐色土 (HV34-2) しまりや中固。粘質面。黄褐色土層上りアロックス層。
- H-1 P2 C
- 1 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。AsC 褐色土層上りアロックス層。炭化物層。
 - 2 黒褐色土 (HV33-1) しまりや中固。粘性あり。AsC層上りアロックス層。
 - 3 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。AsC層上りアロックス層。
 - 4 黒褐色土 (HV33-2) しまりあり。粘性や中固。AsC層上りアロックス層。
- H-1 P3 E
- 1 褐色土 (HV34-4) しまり・粘性あり。粘土や中多量。粘石層。
 - 2 黒褐色土 (HV33-2) しまりあり。粘性や中固。AsCや中多量。炭化物粘質土少量層。
 - 3 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。炭化物や中多量。AsCや中多量。
 - 4 黒褐色土 (HV33-2) しまりや中固。粘性面。AsCや中多量。
 - 5 灰黄褐色土 (HV34-2) しまり・粘性面。AsC層上りアロックス層。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 6 灰黄褐色土 (HV34-2) しまり・粘性面。AsC層上りアロックス層。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 7 灰黄褐色土 (HV34-2) しまり・粘性面。炭化物層。炭化物や中多量。AsC層上りアロックス層。
 - 8 灰黄褐色土 (HV34-2) しまり・粘性面。炭化物層。炭化物や中多量。AsC層上りアロックス層。
 - 9 灰黄褐色土 (HV34-2) しまり・粘性面。炭化物層。炭化物や中多量。AsC層上りアロックス層。
 - 10 黒褐色土 (HV33-2) しまりや中固。粘質面。AsC層上りアロックス層。
 - 11 黒褐色土 (HV33-2) しまりや中固。粘性あり。AsC層上りアロックス層。
- H-1 掘り方
- 1 黄土土 (HV33-2) しまり。粘性あり。炭化物。
 - 2 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 3 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 4 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 5 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 6 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 7 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 8 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 9 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 10 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 11 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 12 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 13 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 14 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 15 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 16 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 17 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 18 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 19 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 20 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 21 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 22 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。
 - 23 黒褐色土 (HV33-2) しまり・粘性や中固。黄褐色土層上りアロックス層。

Fig.37 第3面型穴建物平面・断面図

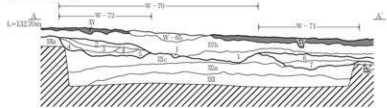
W-68



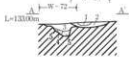
W-69



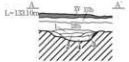
W-70・71・72



W-72・73



W-73



W-68 A

- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまりや中質, 粘性あり, 炭土上フロック少量。
- 2 灰褐色土 (10YR3/1) しまり・粘性や中質, 25%粘土層。
- 3 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり弱, 粘性や中質, 炭土上フロック少量, 5dより5%25層上や中少量。(W-68)
- 4 灰褐色土 (10YR3/1) しまり・粘性や中質, 炭褐色土少量。(W-68)
- 5 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり弱, 粘性や中質, 25%粘土層上フロック少量。(W-68)
- 6 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり弱, 粘性や中質, 25%粘土層上フロック少量。(W-68)
- 7 灰褐色土 (10YR3/1) しまり・粘性や中質, 25%粘土層上フロック少量。(W-68)
- 8 炭土上 (10YR2/1) しまりや中質, 粘性あり, 25%粘土層上フロック少量。(W-68)
- 9 炭土上 (10YR2/1) しまり・粘性あり, 25%粘土層上フロック少量。
- 10 炭褐色土 (10YR3/1) しまり・粘性あり。

W-69 A

- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまりや中質, 粘性あり, 炭土上フロック少量。
- 2 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱, 25%粘土層。
- 3 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱, 炭土上フロック少量。(W-68)
- 4 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱, 25%粘土層上フロック少量, 炭土上フロック少量。(W-68)
- 5 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり・粘性弱, 炭土上フロック少量, 25%粘土層上フロック少量。(W-68)
- 6 じい・黄褐色土 (10YR4/2) しまり・粘性弱, 炭土上フロック少量。(W-68)
- 7 じい・黄褐色土 (10YR4/2) しまり・粘性弱。(W-68)

W-70-72 A

- 1 灰褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性弱, 粘石や中少量。(W-70)
- 2 灰褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性弱, 粘石少量。(W-72)
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり・粘性弱。(W-72)
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり・粘性弱, 25%粘土層上フロックや中少量。(W-72)
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱, 粘性や中質, 25%粘土層上フロック少量。(W-72)
- 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり・粘性弱, 炭土上フロック少量。(W-71)
- 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり・粘性弱, 炭土上フロック少量。(W-71)

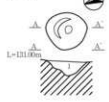
W-72-73 A

- 1 灰褐色土 (10YR3/1) しまりや中質, 粘性あり, 粘石・黄褐色粘層。(W-73)
- 2 灰褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性弱, 炭褐色土上フロック少量。(W-73)
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり・粘性弱。(W-73)
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱, 粘性や中質, 25%粘土層上フロック少量。(W-72)
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱, 粘性や中質, 25%粘土層上フロック少量。(W-72)

W-73 A

- 1 灰褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性弱。(W-73)
- 2 灰褐色土 (10YR3/1) しまりや中質, 粘性あり, 粘石・黄褐色粘層。(W-73)
- 3 灰褐色土 (10YR3/2) しまりや中質, 粘性あり, 粘石。(W-73)
- 4 灰褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性弱, 炭褐色土上フロック少量。(W-73)

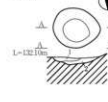
D-5



D-6



D-7



D-5 A

- 1 灰褐色土 (10YR3/2) しまりや中質, 粘性弱, 褐色土上フロック少量, 黄色粘石粘層。

D-6 A

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり, 粘性弱, 25%粘土層上フロック少量。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり, 粘性弱, 25%粘土層上フロックや中少量。

D-7 A

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりや中質, 粘性弱, 炭褐色土上フロック少量。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりや中質, 粘性弱, 炭褐色土上フロックや中少量, 25%粘土層上フロック少量, 炭化粘層。

H-1 (1)

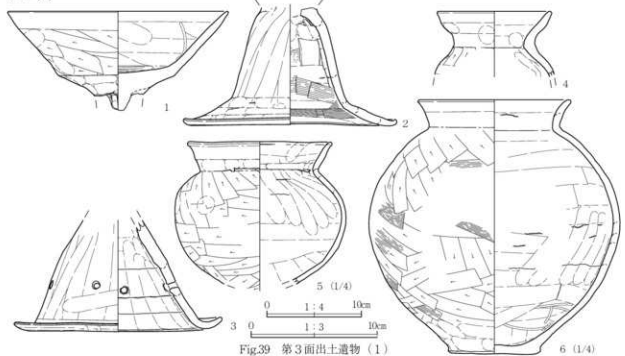


Fig.38 第3面溝断面図、土坑平面・断面図

Fig.39 第3面出土遺物 (1)

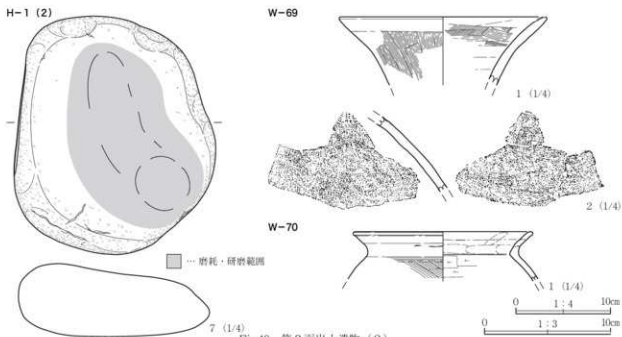


Fig40 第3面出土遺物(2)

第4節 遺構外出土遺物 (Fig41, Tab. 8, PL. 2)

(1) は表採遺物で高井東式土器の波状口縁部片である。(2) は縄文時代晩期の精製土器片、(3) は有段口縁の粗製土器である。この2点は2区基本層序確認トレンチ内のAs-C混土層よりも下層から出土した。他にも、トレンチ内からは(3)と同様の有段口縁の小片が1点、無文の粗製土器の胴部片が5点出土している。今回、表採や時期の新しい溝などの遺構から出土した遺物は表面が摩滅したものが多く、流水による摩滅と考えられる。だが、2区のこのトレンチから出土した晩期の土器は摩滅がほとんど見られない。隣接する田口滝ノ前遺跡においても晩期の土器が確認されているため、当該期の遺構が存在する可能性がある。

遺構外

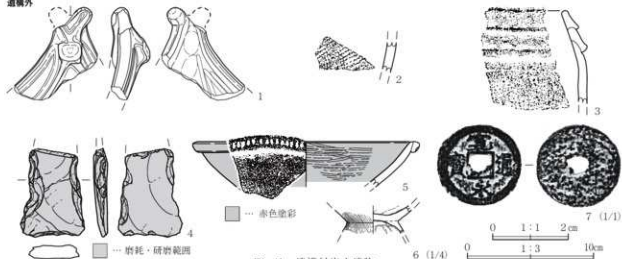


Fig41 遺構外出土遺物

Tab. 8 出土遺物観察表

第1面

T-1

No	出土位置	種類、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・形状、文様等の特徴	現状・備考
1	No.1-2	磨滅部 波状口縁	欠損	63	(21)	白・灰・灰色 硬石	薄土層 中々硬質	黒	外縁口トコナナ。底縁即転転入り後、高の輪付付。 内縁口トコナナ。	表面下層部～表面3-2程度。

第2面

W-25 下層

No	出土位置	種類、器種	長さ	幅	厚さ	材木名	焼成	色調	胎形、成・形状、文様等の特徴	現状・備考
1	No.3	木製品 明製木製品	765	49	28	杉 広葉樹	-	-	木取りは2倍材で、直厚は標正から約2割に達する。上部先端から約1/3の範囲には、文様部の内側より厚型形木竹の混入加工が4層施されているとみられる。 空欄に示れて経路及び先端部分の標本面との変化が顕著。変化が	断面及び先端あり。ほぼ左右、異化が

VI 発掘調査の成果と課題

1 As-B下水田について (Fig.42)

嘉承三年、天仁元年(1108)の浅間山噴火による軽石で覆われた水田が本遺跡で検出された。群馬県内のAs-B下水田の検出事例は多いが、赤城山南西斜面際の後背湿地上に位置する本遺跡周辺では極めて少なく、本遺跡と田口滝ノ前遺跡、関根横田遺跡の3遺跡でのみ確認されている。

条里型水田の検討 古代には条里制があり、As-B下水田は条里型地割に基づいていると考えられている³¹⁾。Fig.42は前橋市の都市計画図に周辺遺跡のAs-B下水田の全体図を重ね、今回9区で検出された中央に溝(W-13)をもつ南北・東西方向の坪境畦畔を基準に109m間隔のメッシュ(条里型地割推定線)を組んだ図である。東西坪境畦畔から南方に1町(109m)の位置には、水田に伴う東西方向に走向するW-12(4区)がある。4区南東部は攪乱を受けていることから、畦畔の残存状況は良好とは言えないが、W-12が東西方向の坪境に位置する水路であった可能性が考えられる。周辺遺跡を検討すると、まず関根横田遺跡では畦畔が1条検出されたのみで、水田区画は検出されていない³²⁾。只し、検出された1条の畦畔はFig.42の条里型地割推定線上に近い位置にある。坪境畦畔は地割の基準として小畦畔よりも残りやすかったと仮定すると、関根横田遺跡の畦畔は坪境畦畔の可能性がある。田口滝ノ前遺跡では水田区画が22面、畦畔は南北方向に7条、東西方向に7条、また坪境畦畔と想定される中央に溝(W-1)をもつ畦畔が検出されている。この遺跡は、畦畔の走行方向が南北・東西正方位を指向した軸を持っていることから条里型水田と考えられる³³⁾。Fig.42を見ると、本遺跡2区において検出された中央に溝(W-23)をもつ畦畔は、田口滝ノ前遺跡の溝(W-1)をもつ畦畔と位置や走行方向から

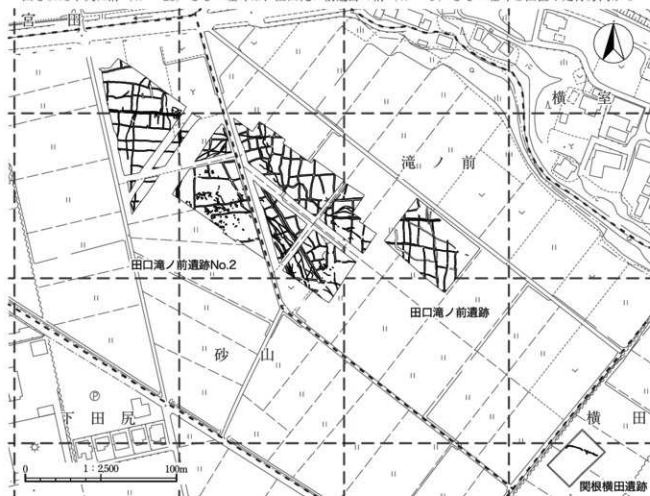


Fig.42 田口滝ノ前遺跡No.2周辺のAs-B下水田

同一の畦畔と考えられる。中央に溝をもつ坪境畦畔の事例は多いが、3・6区の延長線上に同様の性格をもった畦畔は検出されず、また、本遺跡の推定坪境畦畔と1町程の間隔では離れていないため、坪境ではなく水田面への給・配水用の水路を持つやや大型の畦畔であったと考えられる。本遺跡と周辺遺跡のAsB下水田は畦畔が斜向しているものもあるが、総じて南北・東西正方位を指向しているため、条里型水田であったと考えられる。次に、本遺跡の所在する地域からはやや離れた遺跡について検討したい。

本遺跡から南東へ約2～3.9kmの所に山王・柴遺跡群、丑子・上細井五十嵐遺跡がある。これらの遺跡はいずれも赤城山南斜面の白川扇状地上に立地している。山王・柴遺跡群では、畦畔は検出されなかったが、AsB直下で、水田耕作土と考えられる黒色泥質層が確認されている。丑子遺跡では水田は検出されていないが、自然科学分析の結果から、AsB直下の層から比較的小量のイネのプラント・オパールが検出されている。調査地点もしくは周辺域で水田稲作が行われていた可能性が高いと考えられる¹⁵⁾。しかし、水田に関する遺構が確認されていないため条里型水田と判断する事は難しい。丑子遺跡に隣接する上細井五十嵐遺跡ではAsB下水田が検出された。明瞭な畦畔は検出されず、わずかな段差がほぼ東西・南北方向に伸びていることが確認され、緩やかな棚田状に水田が造成されていたと推測される。また段差の部分には給水用と考えられる溝が検出され、後世の削平を受けているが大畦畔と推測される痕跡が検出された箇所も見られた¹⁵⁾。但し、本遺跡を基準とした条里型地割推定線にはあたらないため、白川扇状地上の地形に影響を受けた水田であったと考えられる。

本遺跡周辺は田利根川の流路から形成された自然堤防由来の微高地と付随する後背湿地にあたる。基本層序で述べたように本遺跡は洪水の影響を多く受けた地域であったため、本来は条里型地割に基づき施工されていたものが、次第に崩れて平安時代末期には畦畔の間隔が不規則、不定形となったと考えることもできるであろう。

江戸時代前期には、前橋藩主酒井忠孝による用水整備を伴う新田開発によって、桃ノ木川や小河川沿いに細々と水田が営まれていた¹⁷⁾。また、空中写真・古地図等を元に条里型水田の痕跡をたどったところ、調査区現況は大規模な圃場整備によって改変されており一町方格の地割は残存していない。この地域の地割の変遷、条里型地割の検討にあたっては、今後の発掘調査・研究が進み解明されることを期待したい。

2 Hr-FA 洪水下水田について (Fig.43・44)

水田の灌漑 本遺跡東側の田口滝ノ前遺跡においてもHr-FA洪水下水田が確認されている。本遺跡と田口滝ノ前遺跡はしっかりとした畦畔の高まりがあり、畔づくりを完了した田植え直前の水田であったと考えられる。水田の最小単位は一つ一つの水田面であり、その上の単位としては大畦畔で区画された複数の水田面のまとまりである水田ブロックがある。東日本における5・6世紀の水田の配水方法は、水田ブロックから隣接する水田ブロックへと帯状に配水することが多い。配水系統を同じくする水田ブロックのまとまりが一つの灌漑ユニットであり、複数の灌漑ユニット群によって水田域が形成されていたと考えられている¹⁶⁾。Fig.43では水田の傾斜方向や水路の配置から配水の方向を矢印で示した。調査区外にあたる部分の大畦畔や水路は推定である(8区の大畦畔pは畦畔は検出できなかったが、畦畔の区画方向がここを境に大きく異なることから大畦畔があったと想定した)。水田ブロックは①～⑭に分けられ、更に細分される可能性がある。①・②は大畦畔a・bに区画されるブロックで、①の大部分は調査区外である。余水は大溝(W-41)に排水すると推測される。③は大畦畔b～dに区画される。水口から③→④へと配水する。また一部は水口から③→②(水田面113→77)へと配水する。④は大畦畔b・d・eに区画される。大溝(W-41)があるため水田面は少ない。⑤は大畦畔h・i・jに区画される。余水はW-11に排水すると推測される。⑥は大畦畔j・k・nで区画される。余水は大畦畔mとnの間を通りW-11に排水すると推測される。⑦は大畦畔k・l・oに、⑧は大畦畔k・l・n・oに、⑨はl・nに区画される。水口から⑦→⑧→⑨の順に配水する。⑩は大畦畔l・n・pに、⑪はl・n・qに区画される。大部分が調査区外だが、⑩→⑪の順に配水すると推測される。⑫は大畦畔pから南側の区画である。⑬は大畦畔r・sに区画される。W-33から取水し余水はW-59へ排水する。⑭は大畦畔t・uに、⑮は大畦畔e・uに区画される。⑯は大畦畔eより

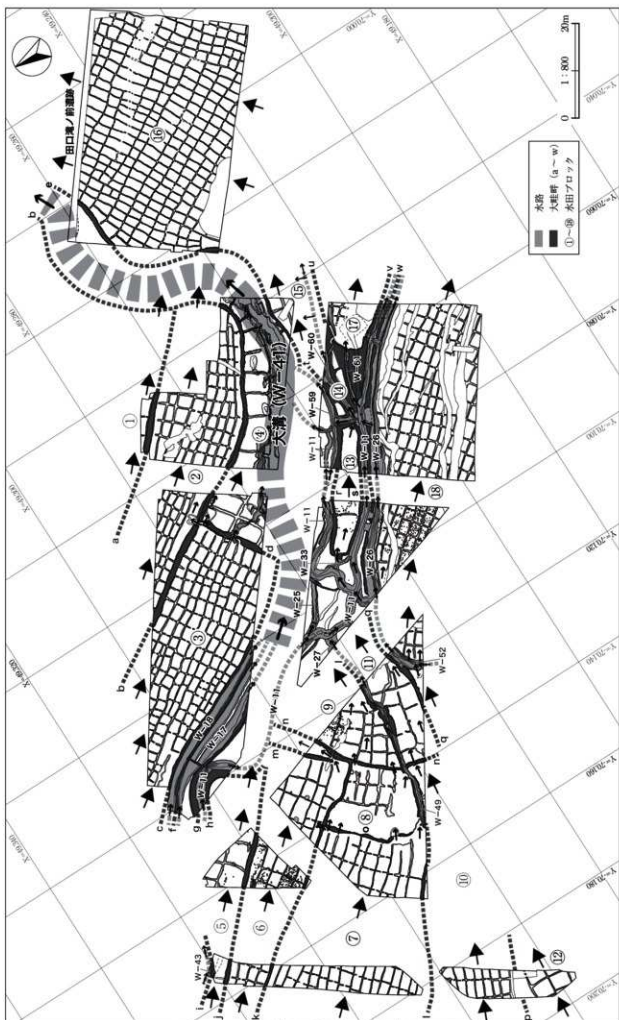


Fig.43 Hr-FA洪水下水田の取配水の方角と水田ブロック

東側の区画である。⑮・⑯は大部分が調査区外だが、W-60から取水すると推測される。⑰は大畦畔u・vに区画され、W-61から取水する。⑱は大畦畔q・wより南側の区画である。W-52から取水し、北西から南東へ配水する。余水はW-26に配水する。以上が水田ブロックと配水方向の検討結果である。個々の水田ブロックの規模や形状は異なっており、元々の地形に応じて水田を造成したことが伺える。遺跡全体の地形を見ると、およそW-49と大溝(W-41)を境に傾斜方向が異なる。水田ブロック①～⑨は北西から南東へ緩やかに傾斜し、⑩～⑬は西から東、または南西から北東へ緩やかに傾斜する。傾斜の転換点にあるW-49は集水の役割をし、W-27を通してW-11に排水すると考えられる。大溝も推定範囲内では給水というよりも余水を集める集水の役割を担うようである。大溝の起点は不明確だが、5区と1区の間を同様の規模のまま通っていることは考え難いため、W-17・18が流れ込む1区と3区の間辺りから次第に幅の大きな溝となっているのではないだろうか。大溝の行く先は、遺跡北側の段丘崖沿いを通して細々沢川へ至るルートが想定される。水田域上流の取水口については桃ノ木川・法華沢川が想定される。

木杭の加工と用途 Hr-FA 洪水下田に伴って様々な大きさの木杭が検出された。枝を素材とし、枝先を杭上端部、幹に近い太くなる方を下端部として尖らせた部材が多い。杭下端部の加工方法は加工面数によってFig44のように分類される。2面加工は両側から同じ角度で削り平刃状となる(W-25木2)。3面加工はまず1面を長めに削り、他2面はその左右から短く削って尖らせる(木2・3・26)。表側には自然面が残っている。4面以上となると加工面の長さが大きく異なるものは少ない。次に杭の用途としては2種類考えられる。一つは水をせき止める堰状遺構を構成する杭、もう一つは畦畔の護岸のための杭である。1区の水口A～Cでは、堰板の

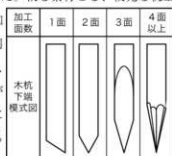


Fig44 木杭の先端加工面数

役割をする木材とそれを止めるように打ち込まれた杭が検出された。類似事例が浜川館遺跡にあり、大畦畔の水口部分に杭を打ち込み横木を渡した構造が見られ、水口に係わる何らかの特別な機能を有していたと推定されている²⁷⁾。同様の検出事例は中村遺跡においても見られる²⁸⁾。また、W-27では溝に直交するように直線的に打ち込まれた3本の杭(木31～33)が検出された。W-27は位置関係からW-49に繋がっていると考えられるが、W-49は前述した通り集水の役割を持つ。W-49は水田ブロック⑩に対しては水口が1箇所開き、⑪に対しては畦畔が無い部分があるため、水田に水を張っている時はW-49も水で満たされていたと考えられる。しかし、そのままではW-27を通じてW-11に水が流れてしまうため、おそらく3本の杭に堰板となる横木をかけて水を堰き止めていたと推測される。

大畦畔に埋没した完形の土師器について 6区の大畦畔(Fig43では大畦畔n)中に埋没した完形の土師器が1点出土した。類似事例は芦田貝戸遺跡Ⅱであり、ほぼ完形の土師器が大畦畔に埋没した状態で検出されている²⁹⁾。今回土師器が埋没していた大畦畔は水田ブロック⑧を区画している。⑧は良好にHr-FA洪水が堆積していたものの、畦畔が検出できず水田面395は大きな区画となっていることから、周囲の水田面とは異なる役割が想定され、それに関連する遺物ではないかと考えられる。

3 古墳時代後期以前について

本遺跡南側の田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡では古墳時代前期の堅穴建物が検出されている³⁰⁾。今回8区で古墳時代前期の堅穴建物が1軒検出されたことから、本遺跡の付近まで集落が点在していた状況が想定される。出土遺物としては6箇所に1円孔が穿たれた高杯脚部が特徴的である。遺物の時期から堅穴建物は前期の終わり頃の遺構と考えられるため、8区が水田耕作地へと転換したのは中期に入った5世紀代であろう。

註

- 1) 田中2002『群馬県内委掘調査資料の収集と改題』「研究紀要20」
- 2) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『関根横田遺跡』
- 3) 岩槻市教育委員会2020『田口上田尻遺跡』
- 4) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『山王・巻遺跡群』
- 5) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『庄子遺跡・上組井五十嵐遺跡』
- 6) 本田に関する用語は大塚2002に拠る。また、以下の水田ブロックや配水に関する検討も大塚氏の論考を参考している。
- 7) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『浜川館遺跡』
- 8) 浜川館教育委員会1986『中村遺跡』
- 9) 高崎市教育委員会1980『田口上田尻遺跡Ⅱ』
- 10) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡』、2017『田口下田尻遺跡』。



1・3・5区第1面全景（上が北東）



7～10区第1面全景（上が東北東）



2区第1面全景（上が北東）



4区第1面全景（上が北東）



6区第1面全景（上が北東）



T-1全景（9区 南西から）



T-1籾、竹・木片検出状況（9区 南西から）



T-1籾、竹・木片近接（9区 北東から）



W-1東側全景（2区 西から）



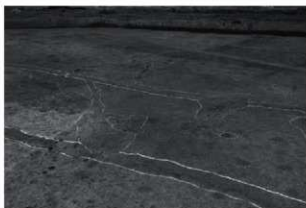
W-4・5北西側全景(3区 北西から)



W-4・5南東側全景(4区 南東から)



W-6・8全景(5区 北東から)



W-15全景(6区 南東から)



W-22全景(2区 西から)



W-24全景(2区 南東から)



W-30全景(2区 南から)



W-31全景(9区 南東から)



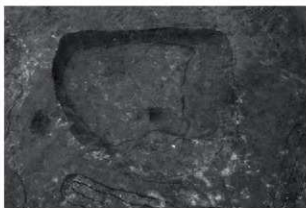
W-32全景 (8区 南東から)



D-2全景 (6区 南西から)



D-2断面 (6区 南西から)



D-4全景 (9区 南西から)



D-4 礎、竹・木片検出状況 (9区 南西から)



A&B下水田 (1区北西部 南西から)



A&B下水田 (1区南東部 南東から)



A&B下水田 (2区 南から)



As-B下水田（4区 北から）



As-B下水田（5区 北から）



As-B下水田（7区 北東から）



As-B下水田（8区 北東から）



As-B下水田（10区 北東から）



As-B下水田南北坪境畦畔（6区 北から）



W-23を伴うAs-B下水田畦畔（2区 東から）



As-B下水田面の凹凸検出状況（9区 北東から）



As-B下水田歩行列2北半部検出状況(6区 南から)



As-B下水田水口(断面47 3区 南から)



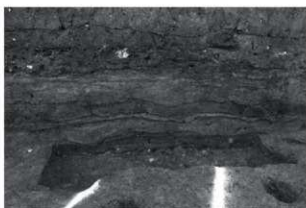
As-B下水田水口(断面48 3区 南から)



As-B下水田水口(断面53・54 10区 南から)



As-B下水田置石3検出状況(9区 南から)



As-B下水田畦畔断面12、As-Kkの堆積(1区 東から)



As-B下水田畦畔断面22近接(3区 南東から)



As-B下水田畦畔断面32(2区 西から)



1区第2面全景（北西から）



2区第2面全景（北西から）



3区第2面全景（上が北東）



4区第2面全景（上が北東）



5区第2面全景 (上が北東)



7区第2面全景 (上が北東)



6区第2面全景 (上が北東)



8区第2面全景 (上が北東)



4区第2面全景 (南東から)



W-11・26・48・58-62・64 (4区 北西から)



W-25F層木材検出状況 (3区 北西から)



W-49全景 (6区 西から)



W-57遺物出土状況 (4区 南東から)



Hr-FA洪水下水田 (6区北側 東から)



Hr-FA 洪水下水田 (1区 南東から)



Hr-FA 洪水下水田 (3区 北西から)



Hr-FA洪水下水田(8区 北東から)



Hr-FA洪水下水田水口の窪み(5区 南東から)

Hr-FA洪水下水田畦畔断面18(5区 南東から)
断面手前の礫は畦畔構築土の中から出土したHr-FA洪水下水田畦畔断面23遺物出土状況
(6区 南東から)

8区第3面全景(北東から)



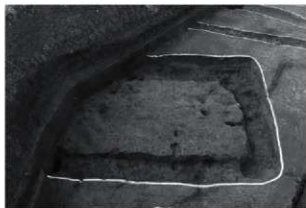
H-1全景(8区 南から)



H-1大型の台石と炭化材検出状況(8区 東から)



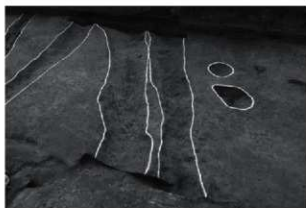
H-1炉全景(8区 東から)



H-1掘り方全景(8区 南から)



W-69遺物出土状況(8区 北西から)



W-70・71全景(8区 南東から)



W-70遺物出土状況(8区 北東から)



W-72・73全景(8区 南東から)



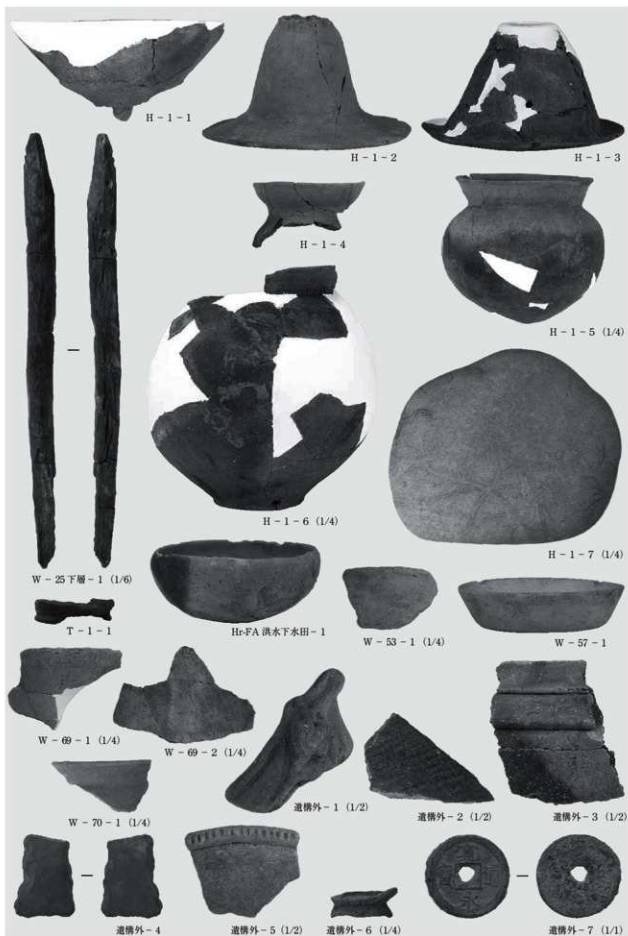
4区第3面確認トレンチ全景(南西から)



基本層序B断面(5区 南東から)



降雨後のHr-FA洪水下水田と作業風景(1区 北西から)



報告書抄録

カタカナ	タグチタキノマイイセキ
書名	田口滝ノ前遺跡No.2
副書名	店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	茂木佑輔 曾根裕
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0033 群馬県前橋市国領町二丁目21番12号
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2025年1月31日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
田口滝ノ前遺跡No.2	群馬県 前橋市田口町 22-1、23-1、23-2、 24-1、25-1、26-1、 43-1、44-1、45、 46-1、47-1、62、 63、64、65、66、 67、69-1、70-1	102016	6 B25	36°44' 18	139°05' 11	20240416 - 20240913	11,444㎡	店舗建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田口滝ノ前遺跡 No.2	集落 水田 その他	弥生時代 古墳時代	Hr-FA 洪水下水田 竪穴建物 1軒 溝 43条 落ち込み 1基 土坑 3基	土師器、石器、 木製品。	古墳時代前期の竪穴建物。 6世紀初頭の榛名山噴火を起因とする洪水堆積物に覆われた水田。
	水田 その他	平安時代 中世 近世	As-B下水田 竪穴状遺構 1基 溝 30条 土坑 3基	須臾器、寛水通寶 (鉄銭)。	1108年の浅間山噴火によるAs-Bに覆われた平安時代末期の条里型水田。

田口滝ノ前遺跡No.2

店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2025年1月24日 印刷

2025年1月31日 発行

発行 前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4

TEL. 027-280-6511

編集

技研コンサル株式会社

印刷

朝日印刷工業株式会社

